

(案)

「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかはま」の
実現を目指して

第6次高浜市総合計画 基本計画【後期】

施策評価シート

〔令和3年度の取組みに対する評価〕



令和4年9月

目 次

1. はじめに

- (1) 「施策評価」(点検・確認)のねらいと実施方法 . . . 2
- (2) 基本計画[後期]の体系 . . . 6
- (3) 施策評価シート とりまとめ部署一覧 . . . 10

2. 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果

- (1) 基本計画の施策に対する「市民意識調査」結果 . . . 12
- (2) 「みんなで目指すまちづくり指標」一覧 . . . 13

3. 施策評価シート

- (1) 施策評価シートの見方 . . . 16
- (2) 施策評価シート

基本目標Ⅰ. みんなで考え みんなで汗かき みんなのまちを創ろう

- 目標(1) まちへの想いを育み、いつまでも住み続けたいと思えるまちをつくり
ます . . . 18

- 目標(2) 将来を見据えた健全な財政運営を行います . . . 22

基本目標Ⅱ. 学び合い 力を合わせて 豊かな未来を育もう

- 目標(3) 学び・文化・スポーツの輪を広げ、まちのチカラを育みます . . . 26

- 目標(4) 学校・家庭・地域が連携を深め、12年間の学びや育ちをつなげます . . . 30

- 目標(5) 子育て・子育てを支える環境を整えます . . . 34

基本目標Ⅲ. 明日を生み出すエネルギー やる気を活かせるまちをつくろう

- 目標(6) 産業を活性化して、まちを元気にします . . . 36

- 目標(7) みんなでまちをきれいにします . . . 40

- 目標(8) 自然と都市機能が調和した都市空間をつくります . . . 42

- 目標(9) 安全・安心が実感できるまちづくりを進めます . . . 44

基本目標Ⅳ. いつも笑顔で健やかに つながり 100 倍ひろげよう

- 目標(10) 一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めます . . . 48

- 目標(11) 一人ひとりの元気と健康づくりを応援します . . . 50



1

はじめに



■ □ (1) 「施策評価」(点検・確認)のねらいと実施方法 □ ■

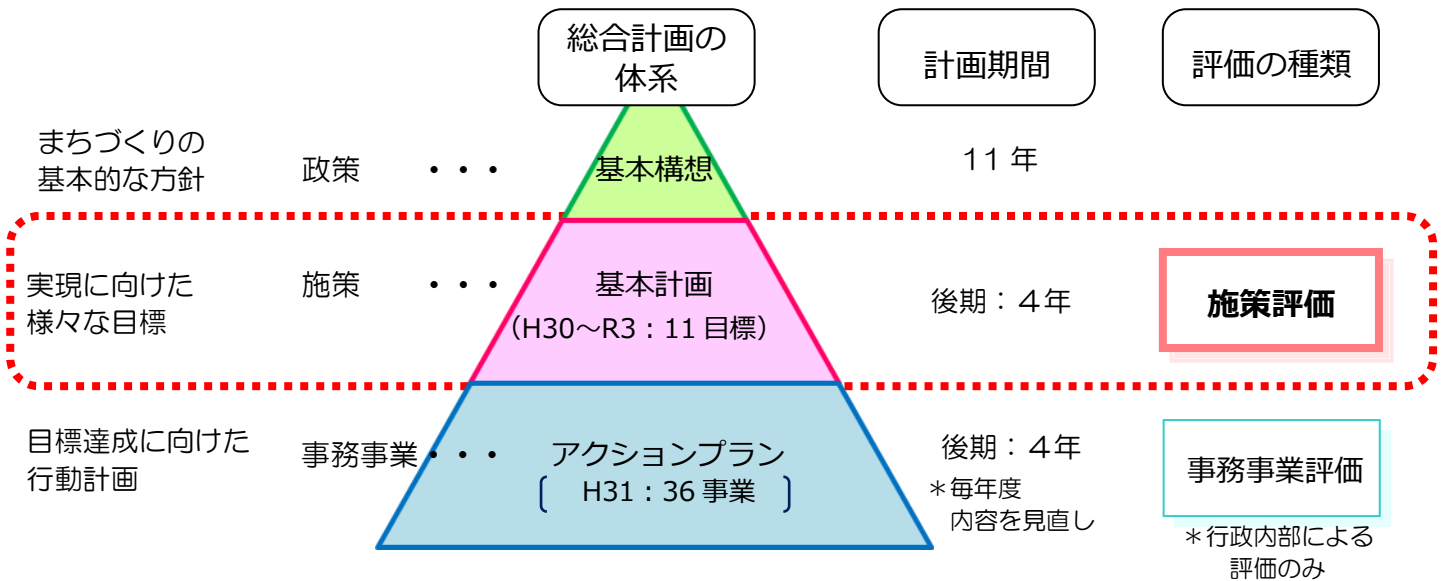
■ 目指す姿の実現に向けて、計画を着実に推進していくために…

- ◇ 総合計画は、みんなで力を合わせて高浜市をつくっていくために「こんなまちにしていこう!」というまちづくりの目標を掲げ、その実現に向けて必要な取組内容を盛り込んだ、「高浜市のまちづくりの設計図」です。
- ◇ 総合計画を実効性のあるものとしていくため、「自治基本条例」と「第6次総合計画」に「計画の進行管理」を位置づけ、PDCA サイクル*に基づき、目標の達成状況の点検・検証、事業の見直し・改善を行うことを宣言しています。

* 「PDCA サイクル」… 計画 (Plan) し、実行 (Do) し、その結果を評価・検証 (Check) し、改善策や次の施策に活かしていく (Action) こと。



■ 総合計画の体系と評価(点検・確認)の種類



■ 「施策評価」(点検・確認)とは

◇ 「施策評価」(点検・確認)とは、目指す姿の実現に向けて、「後期基本計画」に掲げる11目標について様々な観点から点検・確認し、その結果を「アクションプラン」の見直しに反映させ、よりよい行政サービスにつなげることをいいます。

高浜市自治基本条例

第21条(総合計画の策定等)
第3項

行政は、成果を重視した市政運営を目指すため、総合計画の進行管理を行い、その状況をわかりやすく公表します。

第6次高浜市総合計画

後期基本計画 第4章 計画の進行管理

総合計画の基本計画に掲げる目標の達成に向け、その達成状況を点検・確認し、事業の見直し・改善を行うPDCAサイクルを組み入れ、適切な進行管理を行います。

施策評価(点検・確認)のねらい

① 緊張感を保ちながら、よりよい行政サービスにつなげるために ~市民目線を意識して~

総合計画に掲げた目指す姿の実現に向けて、「総合計画推進会議」や「市民意識調査」、日頃の業務を通じてなど、多様な方法で市民の皆さんの声をお聞きし、行政が行っている事業が市民のみなさんの役に立っているかどうかを、緊張感を保ちながら様々な観点から評価(点検・確認)し、事業の見直し・改善に反映させることにより、よりよい行政サービスにつなげる。

② 市民とともに課題を考え、解決に向けて行動していくために ~情報共有と説明責任~

市民と行政が市政運営やまちづくりの課題などについて共通認識を持ち、解決策についてともに考え、目指す姿の実現に向けて行動できるように、後期基本計画に掲げる目標の推進状況、目標の達成状況などの点検・確認結果などを、市民にわかりやすく公表・情報を共有することにより、市政の透明性を高め、説明責任を果たす。

■ 2段階評価による実施

- ◇ 「施策評価」(点検・確認)は、行政内部による評価と、市民目線で取組内容や効果等を点検・確認していただく外部評価(第6次高浜市総合計画推進会議)の2段階で実施します。

■ 評価(点検・確認)結果の報告・共有

- ◇ 第6次総合計画推進会議による評価(点検・確認)結果をとりまとめ、市長へ提出します。

評価(点検・確認)結果を公表することにより、市民と情報を共有し、説明責任を果たす。

第6次高浜市総合計画推進会議

〔所掌事務〕

（「第6次高浜市総合計画推進会議設置規則」より）

- 1) 総合計画の進行管理に関する事項
- 2) その他総合計画の推進に関する事項

具体的には・・・

- ◇ 後期基本計画に掲げた施策（11 目標）について、行政がとりまとめた「施策評価（内部評価）」の内容を点検・確認し、目標の達成に向けた意見・アイデア等を述べる。

＜点検・確認の主な視点＞

- ①取組内容は、目標達成のための手段として適切だったか。
- ②「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」の結果分析や課題把握は的確か。
- ③課題の解決に向けた今後の取組み（案）は、目標達成に資する内容となっているか。

- ◇ 「点検・確認結果」をとりまとめ、市長へ提出する。
- ◇ 推進会議が提出した「点検・確認結果」が、施策・予算等へ反映されているかを確認し、必要に応じて意見を述べる。
- ◇ 推進会議の進め方について協議する。
- ◇ 推進会議のあり方について検討する。

〔構成〕 11 名

- ・ 中川幾郎氏（帝塚山大学大学院名誉教授）
- ・ 市民（9名）
- ・ 副市長

〔開催頻度〕 年 4 回程度

☆意見を述べる

☆点検・確認結果を報告

キャッチボール

☆検討資料の提示

☆求めに応じて関係職員が出席

行政

市長

【部長会】

〔役割〕

- ◇ 後期基本計画の進行管理に向けた総合調整を行う。
- ◇ 推進会議が行う調査・審議に対し、求めに応じた報告や資料等の調整を行う。

資料を提出

職員へ指示

【各担当グループ】

〔役割〕

- ◇ 後期基本計画に掲げた目標の達成に向けて、施策・事業を推進する。
- ◇ 推進会議が行う調査・審議に対し、求めに応じた報告や資料等の作成を行う。
- ◇ 推進会議から示された意見等について、実現可能かどうかを検討し、施策・予算等へ反映する。

【事務局】（総合政策グループ）

〔役割〕

- ◇ 後期基本計画の進行管理事務、推進会議の運営を行う。
- ◇ 推進会議の求めに応じた資料等の取りまとめを行う。
- ◇ 進行管理にあたって必要な各種データ・情報の収集を行う。

参画・協働・情報共有

たかはま未来カフェ

〔目的〕 後期基本計画を推進する中で、行政が抱える課題の解決・改善につながる具体的なアイデアをいただく。

市民

【点検・確認】

- ★ 市民や地域が関わるソフト系の施策（取組み）を中心に、事業をより良くするためのアイデアや改善点などの意見・提案を出す。

行政

- ★ 未来カフェの取り回しを行う。
- ★ 市民のみなさんが意見・提案を出しやすいようにデータを調べたり、検討資料を作成するなど、わかりやすく情報を示す。

■□ (2) 基本計画【後期】の体系 □■

基本計画【後期】は、基本構想に定めた将来都市像「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ」までに、市民・地域・事業者・関係機関・行政が協働して取り組むまちづくりの方向性やための具体的な方策・手段（こんなことに取り組みます）を35本掲げます。

都市像	基本目標	目標	こんなことに
思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかしま	I みんなで考え みんなで汗かき みんなの まちを創ろう	(1) まちへの想いを育み、いつまでも住み続けたいと思えるまちをつくり	
			☆市民と行政がお互いの考えを理解できるよう、積極
			☆市民・地域・行政が得意分野を活かし、それぞれの
			☆職員のワークライフバランスを考えた「働き方」改
		(2) 将来を見据えた健全な財政運営を行います	
			☆市の財政運営や税金に関する情報など、市民の知り
			☆工業用地の創出、市税徴収力の強化、受益者負担の適
			☆公共施設の再編や長寿命化に対する市民の理解を
	II 学び合い 力を合わせて 豊かな未来を 育もう	(3) 学び・文化・スポーツの輪を広げ、まちのチカラを育みます	
		☆市民とともにまちの魅力・自慢（歴史・文化・伝統・	
		☆市民（特に子ども・若者）の「知りたい」「やって	
		☆「いつでも・どこでも・だれでも・いつまでも」気	
(4) 学校・家庭・地域が連携を深め、12年間の学びや育ちをつなげます			
		☆異校種間連携事業で、自分や周りのよさに気づいたり、	
		☆高浜カリキュラムで、高浜の人・もの・ことを活か	
	☆高浜カリキュラム教科版で、優れた授業実践案を集約・		
	☆支援の必要な児童生徒の「特別支援ファイル」の作成と引き継ぎ		
(5) 子育て・子育てを支える環境を整えます			
		☆「高浜市子ども・子育て支援事業計画」に沿って、	
		☆子どもの想いを理解し、子どもの視点に立って、子	
		☆身近な場所に、子どもの自主性・社会性をはぐくめ	

ぐ「大家族たかはま」を実現するため、平成30年度（2018）から令和3年度（2021）目標を示したものです。目指すべき姿（個別目標）を11目標、目標値や目標を達成する

取り組みます！
まず
的な情報発信を行うとともに、対話の場をつくります。
ステージで自分たちのできる“まちづくり”に取り組んでいくための環境づくりを進めます。
革と、職員が地域に関わる“きっかけづくり”から“課題発見・解決”まで段階に応じた成長支援を行います。
たい財政情報を積極的にわかりやすく発信します。
正化など、財源の確保に努めるとともに、真に必要な事業を見極め、限りある財源のより効率的・効果的な活用に取り組みます。
高めるとともに、順次、個別施設計画を策定し、公共施設総合管理計画の着実な推進につなげます。
産業・景観など）を掘り起こし、守り、伝え、活かしていく活動を強化します。
みたい」「役立ちたい」を応援し、市民同士が学び合い、高め合う場づくりを進めます。
軽に楽しめるスポーツ・レクリエーションの機会をつくり、市民交流の場を充実します。
よさを活かしたりできるよう、支援します。また、異校種参観で教師力を向上させ、子どものよさを引き出す指導を展開します。
した教育を実践します。また、活用型のカレンダーを使って「高浜市が育てていきたい子どもの姿」を周知します。
活用したり、ICTを活用した授業や、高浜版プログラミング教育を実践したりして、主体的・対話的で深い学びを支援します。
を確実に行うシステムを構築します。また、教職員の特別支援教育への理解をより深めるとともに、指導力・実践力の向上をめざした研修を充実します。
多様で柔軟な保育サービスの提供など、教育・保育ニーズに対応し、待機児童ゼロをめざします。
育ち・子育てを支える大人を増やしていきます。
るよう、自然に世代間や異年齢交流などができる場を増やしていきます。

都市像	基本目標	目標	こんなことに
思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかしま	Ⅲ 明日を 生み出す エネルギー やる気を 活かせる まちをつくらう	(6) 産業を活性化して、まちを元気にします	
			☆農地とのバランスを考慮しつつ新たな工業用地を
			☆災害による風評被害の払しょくや伝統性を活かした商品開発
			☆高浜高校SBP（ソーシャルビジネスプロジェクト）
			☆高浜市観光協会や関連団体が行うイベントや高浜
		(7) みんなでまちをきれいにします	
			☆地域・学校・事業者・関係機関と連携した環境保全
			☆循環型社会の構築に向け、資源ごみのリサイクルを
			☆「高浜市みんなでまちをきれいにしよう条例」を推
		(8) 自然と都市機能が調和した都市空間をつくりま	
		☆道路や橋りょう等の計画的な維持管理のため、調	
		☆災害時でも水が安定的に供給できるよう、災害時避	
		☆公園施設長寿命化計画に則って計画的に公園施設	
	(9) 安全・安心が実感できるまちづくりを進めます		
	☆自然災害に対し、市民・地域・事業者・関係機関と		
	☆「高浜市みんなで犯罪のないまちにしよう条例」に		
	☆地域・警察・事業者・関係機関と連携し、特に自転		
Ⅳ いつも笑顔で 健やかに つながり 100倍 ひろげよう	(10) 一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めま		
		☆生活困窮、介護、障がい、育児など、支援が必要な	
		☆その人に合った暮らしを実現するため、地域の実情	
		☆福祉サービスやふだんの生活を支えるための多様	
	(11) 一人ひとりの元気と健康づくりを応援します		
	☆生涯をとおして健康を意識し、生活の質を高めるた		
	☆高齢者の居場所である「健康自生地」を応援すると		
	☆疾病を早期に発見し、適切な治療が受けられる「か		

取り組みます！
創出し、企業誘致を進めるとともに、既存企業の投資意欲を高める支援策を推進します。
、ブランド化など、地場産業である三州瓦の優位性やデザイン性をPRするため、「高浜市みんなで三州瓦をひろめよう条例」を推進します。
ト)を支援し、高浜市の産業を全国的にPRするなど、ビジネス手法を用いた若い世代の育成支援をします。
市のPRに対し人的支援、活動支援をします。
活動に取り組みます。
進め、ごみの減量化に取り組みます。
進し、環境美化活動を進めます。
査・点検を進め、改良や修繕を行います。
難所へ水道を供給する配水管を耐震管に布設替えるなど、耐震化を進めます。
の修繕を進めるとともに、地域の関係団体と協働で「緑のあるまちづくり」を進めます。
「自助」「共助」「公助」の考えに基づく役割分担と相互の連携強化を図り、実践的な防災・減災活動に取り組みます。
に基づき、地域・警察等で構成する高浜市防犯ネットワーク会議を軸に、犯罪抑止活動を推進します。
車の運転マナーの向上、高齢者や子どもの交通事故防止に向けた取り組みなど、交通安全対策を進めます。
す
人に対し、早期かつ包括的な相談支援を行い、各々の事情に応じた支援につなげます。
に応じて、福祉サービスや地域の支え合いの充実を図ります。
な人材を養成します。
めの健康づくり活動を応援します。
ともに、担い手としての活躍の場を創出します。
かりつけ医」を持つよう働きかけるとともに、地域医療の充実と医療と介護の連携を推進します。

■□ (3) 施策評価シート とりまとめ部署一覧 □■

◎=とりまとめグループ

<基本目標Ⅰ>

みんなで考え
みんなで汗かき
みんなのまちを
創ろう

教育長 岡本竜生
企画部長 木村忠好
総務部長 杉浦崇臣

目標 (1) まちへの想いを育み、
いつまでも住み続けたいと思えるまちをつくります

◎企画部 総合政策グループ
企画部 秘書人事グループ

目標 (2) 将来を見据えた健全な財政運営を行います

◎総務部 財務グループ
企画部 ICT 推進グループ
教育委員会 学校経営グループ

<基本目標Ⅱ>

学び合い
力を合わせて
豊かな未来を
育もう

教育長 岡本竜生
こども未来部長 磯村順司

目標 (3) 学び・文化・スポーツの輪を広げ、まちのチカラを育みます

◎こども未来部 文化スポーツグループ

目標 (4) 学校・家庭・地域が連携を深め、

12年間の学びや育ちをつなげます

◎教育委員会 教育センターグループ

目標 (5) 子育て・子育てを支える環境を整えます

◎こども未来部 こども育成グループ

<基本目標Ⅲ>

明日を生み出す
エネルギー
やる気を活かせる
まちをつくろう

都市政策部長 杉浦義人
市民部長 岡島正明

目標 (6) 産業を活性化して、まちを元気にします

◎市民部 経済環境グループ
都市政策部 都市計画グループ

目標 (7) みんなでまちをきれいにします

◎市民部 経済環境グループ

目標 (8) 自然と都市機能が調和した都市空間をつくります

◎都市政策部 土木グループ
都市政策部 上下水道グループ

目標 (9) 安全・安心が実感できるまちづくりを進めます

◎都市政策部 防災防犯グループ

<基本目標Ⅳ>

いつも笑顔で
健やかに
つながり 100 倍
ひろげよう

福祉部長 磯村和志

目標 (10) 一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めます

◎福祉部 地域福祉グループ
福祉部 介護障がいグループ
福祉部 福祉まるごと相談グループ
福祉部 健康推進グループ

目標 (11) 一人ひとりの元気と健康づくりを応援します

◎福祉部 健康推進グループ
福祉部 福祉まるごと相談グループ



2

「市民意識調査」 「みんなで目指す まちづくり指標」 結果



(1) 後期基本計画（平成30年度～令和4年度）の施策の点検・確認

総合計画の後期基本計画（平成30年度～令和4年度）では、「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかはま」の実現に向けて、11の目標を掲げ、まちづくり（施策）に取り組みました。市民意識調査では、目標ごとにまちづくり（施策）の進み具合を確認しました。

設問	計画策定時の値 (平成29年)	実績値 (平成30年)	実績値 (令和元年)	実績値 (令和2年)	実績値 (令和3年)	動向
1 まちを愛する想いが育まれ、市民みんなが連携・協力して、まちづくりを行っているまちだと思う。	62.2%	61.8%	60.6%	61.7%	62.3%	◎
2 将来を見据えた財政運営が行われていると思う。	46.6%	45.1%	46.7%	43.7%	45.2%	○
3 学び（生涯学習やスポーツなど）を通して、人と人がつながり、まちづくりを担う人が育っているまちだと思う。	55.2%	53.4%	54.6%	51.9%	52.0%	○
4 学校・家庭・地域が連携し、子どもの12年間（4歳～15歳）の学びや育ちを育む体制が整っているまちだと思う。	58.8%	62.0%	64.0%	61.3%	61.6%	◎
5 子育て・子育てを支えているまちだと思う。	54.7%	55.5%	60.5%	56.8%	57.7%	◎
6 産業が活性化して、まちが元気になっていると思う。	21.0%	27.7%	26.7%	27.9%	28.0%	◎
7 みんなで環境美化・保安全に取り組んでおり、きれいなまちだと思う。	66.2%	65.6%	69.2%	68.2%	67.2%	△
8 調和の取れた土地利用が図られ、安全・快適で移動しやすいまちだと思う。	44.8%	50.2%	56.1%	51.7%	53.7%	◎
9 安全・安心が実感できる防災・防犯対策が進められているまちだと思う。	57.7%	55.3%	55.1%	55.6%	59.9%	◎
10 一人ひとりが認め合い、高齢者や障がい者などがいきいき暮らすことができるまちだと思う。	63.0%	58.5%	62.9%	60.9%	62.6%	○
11 一人ひとりの元気と健康づくりを応援しているまちだと思う。	65.8%	61.7%	60.5%	59.7%	59.7%	○

【動向】

- ◎…実績値（令和3年）が計画策定時の値（平成29年）と実績値（令和2年）をともに上回っている。
- …実績値（令和3年）が計画策定時の値（平成29年）を下回っているが、実績値（令和2年）を上回っている。
- △…実績値（令和3年）が計画策定時の値（平成29年）を上回っているが、実績値（令和2年）を下回っている。
- ×…実績値（令和3年）が計画策定時の値（平成29年）と実績値（令和2年）をともに下回っている。

(2) みんなでめざすまちづくり指標について

総合計画の後期基本計画（平成30年度～令和4年度）の目標の達成度合いを示す目安「みんなでめざすまちづくり指標」の動向を確認しました。*…市民意識調査で測定した指標

目標		みんなでめざすまちづくり指標 (目標の達成度を計る指標)	計画策定時の値 (平成29年)	実績値 (平成30年)	実績値 (令和元年)	実績値 (令和2年)	実績値 (令和3年)	動向	目標値 (令和4年)
1	まちへの想いを育み、いつまでも住み続けたいと思えるまちをつくりたい	市の情報発信に満足している人の割合*	47.3%	62.0%	60.3%	57.5%	55.7%	△	65%
		地域活動に参加したことがある人の割合*	62.9%	58.6%	60.1%	63.5%	57.0%	×	70%
		市民と一緒にやって地域活動に取り組んでいる職員の割合	54.0%	55.0%	60.0%	45.0%	40.0%	×	66%
2	将来を見据えた健全な財政運営を行います	経常収支比率	88.8%	89.3%	88.3%	89.4%	89.7%	◎	80% 台維持
		将来を見据えた財政運営が行われていると思う人の割合*	46.6%	45.1%	46.7%	43.7%	45.2%	○	55%
3	学び・文化・スポーツの輪を広げ、まちのチカラを育みます	高浜市に愛着や誇りを持っている人の割合*	71.4%	66.4%	67.6%	68.2%	64.0%	×	76%
		将来の夢・希望・目標を持っている子どもの割合*	76.1%	75.8%	69.6%	75.5%	73.9%	×	81%
		持っている知識・特技・体験などを地域や社会活動に活かしている人の割合*	28.5%	27.9%	30.3%	30.8%	28.7%	△	35%
4	学校・家庭・地域が連携を深め、12年間の学びや育ちをつなげます	自分や周りのよさを認める子どもの割合* ★注意1	78.5%	90.3%	88.1%	89.8%	89.2%	○	85%
		地域や社会に関心をもつ子どもの割合* ★注意2	59.2%	74.5%	71.9%	71.4%	70.9%	○	70%
		学習が将来、役立つと感じている子どもの割合* ★注意3	76.7%	80.4%	77.3%	80.9%	80.2%	△	85%
5	子育て・子育てを支える環境を整えます	子どもを産み、育てやすいと感じている人の割合*	66.0%	65.9%	64.4%	66.7%	62.2%	×	70%
		子どもに対して理解のある大人の割合*	66.2%	70.1%	72.0%	69.1%	69.5%	○	94%
		待機児童数	17人	19人	11人	23人	16人	○	0人
6	産業を活性化して、まちを元気にします	市内の法人数	919社	937社	946社	946社	984社	◎	930社
		行政がかかわるイベントの来場者数	86,000人	89,000人	68,000人	43,000人	54,000人	○	100,000人
		製造品出荷額等	5,123.5億円	4,465.8億円	5,680.1億円	5,361.2億円	国で集計中	—	6,227.7億円
7	みんなであちをきれいにします	日ごろから省資源や省エネなど環境に配慮した生活をしている人の割合*	77.9%	75.2%	77.1%	76.8%	77.7%	○	85%
		1人1日あたりの家庭ごみ排出量	540g	564g	539g	508g	538g	△	490g
		市民一斉清掃や地域・企業での清掃活動に参加したことがある人の割合*	60.4%	59.6%	58.0%	61.2%	55.6%	×	71%
8	自然と都市機能が調和した都市空間をつくりたい	道路の長寿命化を計画的に実施した割合 (幹線道路の舗装)	18.4%	23.1%	28.4%	31.5%	33.9%	○	38.6%
		配水管の耐震化率	18.5%	20.5%	22.4%	24.3%	27.0%	◎	25%
		公園・緑地・稗田川の水辺・港湾緑地等を利用している人の割合*	20.2%	24.6%	25.0%	27.4%	24.9%	○	23%
9	安全・安心が実感できるまちづくりを進めます	家具を固定している人の割合*	59.1%	61.0%	63.0%	62.5%	62.9%	○	70%
		防災訓練に参加したことがある人の割合*	61.9%	61.7%	64.3%	63.5%	59.7%	×	72%
		人口1,000人あたりの犯罪発生件数	6.9件	6.5件	5.9件	5.8件	4.8件	◎	6.0件
		人口1,000人あたり交通事故発生件数	3.9件	3.7件	2.7件	2.6件	2.5件	◎	3.0件
10	一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めます	いきいき広場（相談窓口）を知っている人の割合*	72.3%	74.8%	77.2%	76.0%	73.0%	△	80%
		高浜市内でボランティア活動に参加したことがある人の割合*	29.7%	28.3%	29.1%	28.8%	25.7%	×	36%

11	一人ひとりの元 気と健康づくり を応援します	日常的に外出や運動を楽しんでいる人の割合*	63.4%	66.3%	62.6%	61.8%	59.7%	×	71%
		かかりつけ医を持っている人の割合*	78.6%	74.7%	70.1%	71.7%	68.0%	×	84%

- ★注意 1 2つの設問の平均値 (①自分は成長している(成長した)と思いますか ②あなたの周りは、お互いの考えを認めたりよさを見つけたりすることができていると思いますか)
- ★注意 2 2つの設問の平均値 (①あなたは、高浜の人、もの、ことに関心がありますか ②あなたは、社会に関心をもって、新聞を読んだり、テレビやネットのニュースを見たりしますか)
- ★注意 3 4つの設問の平均値 (①分からないことがあった時、調べたり、どういふことか考えたりしますか ②学習したことを活用していろいろな問題の解決に役立っていますか ③学習したことや考えたことを、表現を工夫して人に伝えたことはありますか ④②③の繰り返し、将来役に立つと感じますか)

【指標の動向】

- ◎=実績値(令和3年)が目標値に達している。 <5 指標/31 指標>
- =実績値(令和3年)が目標値に達していないが、実績値(令和2年)を上回っている。もしくは、
実績値(令和3年)が目標値に達しているが、実績値(令和2年)を下回っている。 <10 指標/31 指標>
- △=実績値(令和3年)が計画策定時の値(平成29年)を上回っているが、実績値(令和2年)を下回っている。
<5 指標/31 指標>
- ×=実績値(令和3年)が計画策定時の値(平成29年)・実績値(令和2年)をともに下回っている。
<10 指標/31 指標>

※実施年度により、【動向】◎○△×の説明・表現が異なります。

製造品出荷額が集計中のため、動向について記載されておりません。

【参考】

設問	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3
高浜市のまちづくりのキャッチフレーズ「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかはま」を知っていますか。	22.4%	33.6%	39.9%	41.4%	43.4%	48.0%	46.7%	43.7%	44.3%	41.5%



3

施策評価 シート



目標(1) まちへの想いを育み、いつまでも 住み続けたいと思えるまちをつくります

R3 施策評価シート

I. 目指す姿【PLAN】	
目標達成に向けての考え方	「いつまでも住み続けたい!」と思える高浜市を未来へつなぐために、まちの目指す姿を共有し、市民・地域・行政がそれぞれの力を高め、みんなで連携・協力できる「つながるまちづくり」を進めていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◎ まちの課題や目標が市民と行政で共有され、市民が市政を身近に感じ、市政に対する関心・理解、満足感が高まっています。 ◎ 市民のまちへの愛着が高まり、まちのことを「自分ごと」として考え、まちを大切にし、自分にできる“まちづくり”を行っています。 ◎ 職員一人ひとりが地域課題について考え、市民や地域の想いに寄り添いながら、課題の解決に取り組んでいます。
目標達成の進捗状況	A:順調 B:一定の進捗あり C:進捗が遅延している D:進捗が大幅に遅れている

目標の達成状況	計画値	実績値 (H29)	実績値 (H31)	実績値 (R3)	実績値 (R3)
市民意識調査		62.2	61.8	60.6	
みんなで目指すまちづくり指標	市の情報発信に満足している人の割合 (%)				目標値
	47				65
	地域				目標値
	62				70
	市民と一緒に地域活動に取り組んでいる職員の割合 (%)				目標値
	54.0	55.0	60.0		66

目標達成の進捗状況を A~D の4段階で記載します。

目標の達成度合いをはかる「市民意識調査」と「みんなで目指すまちづくり指標」の数値の推移を示します。

こんなことに取り組みます! (1) 市民と行政がお互いの考えを理解できるよう、積極的な情報発信を行うとともに、対話の場をつくります。

II. 目標達成のための主な取組み【DO】	
何を・どうした	いつ
① 『広報たかはま』において、市民記者が撮影したものとわかるように撮影内容を明記のうえ写真を掲載し、市民記者の認知度・関心を高めた。若者会議を6回開催し、50周年記念事業について一緒に考えた。	H31 中
② 情報発信の在り方を見直し、情報を伝えたい対象に合った発信方法・内容を充実・強化していくために、4月発行の広報紙から月1回発行に見直し、12月にホームページを公開した。また、フェイスブックを用いてリアルタイムでの発信が可能になった。	R1.12
③ 新しい市公式ホームページを運用するため、10月に職員研修を実施した。	R1.10
④ 市公式ホームページリニューアルと連動した投稿型フェイスブック運用をめざし検討を進めた。	H31 中

(例)
H31.4
R1.7-8
R1.8~
※具体的に示されていない場合はおこ(ダッシュ)

III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析(要因・課題等)

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】

【行政の記載内容】
「市民意識調査結果」や「みんなで目指すまちづくり指標の推移」を踏まえ、指標(目標)が達成できた要因・達成できなかった要因の分析、「市民意識調査結果」や「指標の推移」から見てきた課題を、**箇条書きで分かりやすく**記載します。

【推進会議の着眼点】

- ① 「II. 目標達成のための主な取組み」の成果との関連を踏まえた分析が行われているか。
- ② 指標等の結果から見てきた課題が、適切に分析されているか。
- ③ 課題解決に向けた考え方・方向性が示されているか。
- ④ 「みんなで目指すまちづくり指標」や目標値の見直しは必要ないか。

こんなことに取り組みます! (2) 市民・地域・行政が得意分野を活かし、それぞれのステージで自分たちのできる“まちづくり”に取り組んでいくための環境づくりを進めます。

II. 目標達成のための主な取組み【DO】

何を・どうした	いつ

【行政の記載内容】

- ◇ 令和3年度の取組みや市民意識調査結果・指標の状況から見えてきた課題、新たに発生している課題を記載します。
- ◇ どのように課題解決に取り組んでいこうと考えているのか、課題解決に向けた方向性（案）を記載します。
- ◇ 課題解決に向けた方向性（案）に掲げた内容に、いつから（いつまでに）取り組むのかを記載します。

【推進会議の着眼点】

- ① 「課題」は、「市民意識調査」や「みんなで目指すまちづくり指標」の分析を踏まえたものとなっているか。
- ② 「課題解決に向けた方向性（案）」は、課題を的確に踏まえたものとなっており、具体的な事業を想定して記述されているか。
- ③ 特に、指標等が低下したものについては、方向性（案）がしっかりと練られているか。
- ④ 記載内容の他に、目標の達成に向けて改善すべき課題や今後の取組みにつながるアイデアはないか。

--	--

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】

課題	いつまでに
課題解決に向けた方向性（案）	

こんなことに取り組みます！ (3) 職員のワークライフバランスを考えた「働き方」改革と、職員が地域に関わる“きっかけづくり”から“課題発見・解決”まで段階に応じた成長支援を行います。

II. 目標達成のための主な取組み【DO】

何を・どうした	いつ
① 管理職、主査職等を対象に、業務全般に対する当事者意識や対人関係構築能力を高めるための「オーナーシップ研修」を実施した。	R2.1
② 採用4年目までの若手職員を対象に8月から業務改善研修を実施し、1年目職員にあっては全庁共通業務の改善に取り組み、2年目から4年目までの職員にあっては担当業務のICT化に取り組んだ。	R1.8～
③ 若手・中堅職員によるプロジェクトチームを設置し、市制50周年記念事業の企画を市民会議50の市民委員とともに検討した。また、市制50周年記念イベントを企画実施するとともに、50周年記念Tシャツのデザインを考案した。	H31.4～
④ これまでの3つの階層に新たに令和2年度から導入される会計年度任用職員の階層を設け、9月末までに精査し、来年度実施する研修を決定した。	R1.9-10

III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）

--	--

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】

課題	いつまでに
課題解決に向けた方向性（案）	

V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

推進会議委員からのコメントをまとめます。

目標(1) まちへの想いを育み、いつまでも 住み続けたいと思えるまちをつくりま

I. 目指す姿【PLAN】	
目標達成に向けての考え方	「いつまでも住み続けたい!」と思える高浜市を未来へとつないでいくために、まちの目指す姿を共有し、市民・地域・行政がそれぞれの力を高め、みんなで連携・協力できる「つながるまちづくり」を進めていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◎ まちの課題や目標が市民と行政で共有され、市民が市政を身近に感じ、市政に対する関心・理解、満足感が高まっています。 ◎ 市民のまちへの愛着が高まり、まちのことを「自分ごと」として考え、まちを大切にし、自分にできる“まちづくり”を行っています。 ◎ 職員一人ひとりが地域課題について考え、市民や地域の想いに寄り添いながら、課題の解決に取り組んでいます。
目標達成の進捗状況	A:順調 B:一定の進捗あり C:進捗が遅延している D:進捗が大幅に遅れている

目標の達成状況	策定値	実績値(H30)	実績値(H31)	実績値(R2)	実績値(R3)	実績値(R4)		
市民意識調査	【設問】まちを愛する想いが生まれ、市民みんなが連携・協力して、まちづくりを行っているまちだと思う(%)							
	62.2	61.8	60.6	61.7	62.3			
みんなで目指すまちづくり指標	市の情報発信に満足している人の割合(%)							目標値
	47.3	62.0	60.3	57.5	55.7		65	
	地域活動に参加したことがある人の割合(%)							目標値
	62.9	58.6	60.1	63.5	57.0		70	
	市民と一緒に地域活動に取り組んでいる職員の割合(%)							目標値
	54.0	55.0	60.0	45.0	40.0		66	

こんなことに取り組みます!	(1) 市民と行政がお互いの考えを理解できるよう、積極的な情報発信を行うとともに、対話の場をつくりま。【総合政策グループ】
---------------	---

II. 目標達成のための主な取組み【DO】	
何を・どうした	いつ
① 情報をより多くの方に届けるために、広報全世帯配布に対する検討や町内会に対するアンケート調査を行った。	R3.5
② 昨今、市民の関心が高い新型コロナウイルス感染症に関連する情報については、広報や市公式ホームページのみならず、メディアや各地域団体の会議等で積極的に情報を発信した。また、スピーディーな情報発信を目指し、より身近で使いやすいと考える市公式LINE(ライン)について、アカウントを開設した。	R4.1~
③ 市民・行政の行事カレンダーに関する検討を行ってきたが、コロナ禍でイベントが少ない中、その必要性を再検討し、市制施行50周年の取組みの一つとして実施している市制50周年PR用Instagramにより、風景なども含めた市の魅力を市職員だけでなく、市民と一緒に発信することができた。市民・行政の行事カレンダーに関する検討を行ってきたが、コロナ禍でイベントが少ない中、その必要性を再検討し、市制施行50周年の取組みの一つとして実施している市制50周年PR用Instagramにより、風景なども含めた市の魅力を市職員だけでなく、市民と一緒に発信することができた。	R3.4~

III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】	
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析(要因・課題等)	
<ul style="list-style-type: none"> ・市民意識調査及びまちづくり指標において、いずれも30代・40代で低下している。働き盛り、子育て世代に対する情報発信が不足していると推察できる。 ・指標の推移を見ると、情報発信に対する満足度と市民意識調査結果の相関関係は薄いと考えられる。 ・令和2年度の施策評価において今後の取組として「発信する情報(内容)の充実と情報発信に対する職員の意識向上」を掲げていたが、その取り組み成果が十分でなかったことが指標低下の要因であると考えられる。 ・指標が向上している10代・20代については、学校に整備された連絡システムや市制50周年、50代・60代の指標向上については、コロナワクチンに対する発信が評価されたものと考えられる。 	

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】		
課題	発信する情報（内容）の充実と情報発信に対する職員の意識向上	いつまでに
課題解決に向けた方向性（案）	<ul style="list-style-type: none"> ◎戦略的な情報発信に関する指針となる広報戦略を改訂する。 ◎職員向けの情報発信研修を実施する。 ◎市公式 LINE の登録者増加に向けた取り組みを検討する。 	R4.12 R4.5 R4.12

こんなことに取り組みます！	<p>（2）市民・地域・行政が得意分野を活かし、それぞれのステージで自分たちのできる“まちづくり”に取り組んでいくための環境づくりを進めます。</p> <p>【総合政策グループ】</p>
---------------	--

II. 目標達成のための主な取組み【DO】

何を・どうした	いつ
① 高浜市市制 50 周年を行政と企画・実践する「高浜市市民会議 50」と一緒に市制 50 周年記念事業を実施することができた。加えて、第 7 次総合計画の策定にかかる「高浜市の未来を描く市民会議」をコロナ禍でも 4 回開催し、高浜市の 10 年後の未来について検討することができた。	R3.4~
② まち協特派員に第 8 期生 5 名を新たに任命し、各まち協に新たに 1 名ずつ派遣した。	R3.4~
③ 令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の蔓延によって、思うように会議が開催できなかったが、令和 3 年度はコロナ禍にあっても感染症対策を講じ、第 7 次総合計画に関する市民会議、審議会を開催することができた。市民の意見を取り入れながら、キャッチフレーズの決定、計画のフォーマットに関する意見交換を取り交わすことができた。	R3.4~
④ 6 月、12 月にまち協サミットを開催し、令和 4 年度予算やコロナ禍における事業実施状況について話し合った。また、第 2 次地域計画の進捗状況の共有を行った。	R3.6,12
⑤ 講師を招いて、町内会と合同の研修会を開催し、地域防災に対する意識の向上を図った。	R3.7

III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）
<ul style="list-style-type: none"> ・50 代以外の年代でまちづくり指標が低下している。指標の低下の最大の要因は、長引くコロナに対する不安から地域活動に参加する率が低下し、またそもそも参加できる地域活動自体も減少したためと考える。 ・コロナ禍なので、なんでも中止というわけではなく、行政としても感染対策を行いながら、規模を縮小するなどして、市制 50 周年事業や総合計画の策定など取り組んできたが、指標向上という結果につながらなかった。 ・コロナ禍においてオンライン化の普及など、参加の仕方が多様化してきた。対面と非対面の両側からのアプローチがこれからの時代は必要であり、指標向上のカギになると考える。

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】

課題	まちづくりへの関わり方や関わりたいと思いたくなる取組の検討が必要	いつまでに
課題解決に向けた方向性（案）	<ul style="list-style-type: none"> ◎若者や定年世代のまちづくりへの参加を促進する取組を検討する。 ◎まちづくりの設計図「第 7 次総合計画」を策定する。 ◎まちづくり協議会を中心に地域活動を継続していける仕組みを検討する。 	R4.12 R5.3 R5.3

こんなことに取り組みます！	<p>（3）職員のワークライフバランスを考えた「働き方」改革と、職員が地域に関わる“きっかけづくり”から“課題発見・解決”まで段階に応じた成長支援を行います。</p> <p>【秘書人事グループ】</p>
---------------	--

II. 目標達成のための主な取組み【DO】

何を・どうした	いつ
① コロナ禍等に対応するため、全職員を対象に時差出勤や在宅勤務（テレワーク）に取り組んだ。	R3.4~
② 若手・中堅職員が「高浜市市民会議 50」に参加し、市制施行 50 周年記念事業の企画を市民委員とともに検討した。	R3.4~
③ 新規採用職員を対象に職員として必要な基礎知識などを学ぶ「若手職員成長支援研修」を年間を通して実施した。	R3.4~
④ 地域の中で積極的・主体的に行動できるリーダーを養成する「全国地域リーダー養成塾」に職員が参加した。	R3.6~
⑤ 若手・中堅職員によるプロジェクトチームを結成し、市政施行 50 周年記念式典で上映するための動画を制作した。	R3.6~
⑥ 主査主任級職員を対象に、意欲向上と管理職に向けたキャリアアップをテーマにした「モチベーションアップ研修」を実施した。	R4.1
⑦ 主事級職員を対象に、限られた時間の中で業務効率を高め最大限の成果を上げるための手法を学ぶ「タイムマネジメント研修」を実施した。	R4.3
⑧ 職員成長支援計画（研修計画）を更新した。	R4.3

III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）
・新型コロナウイルス感染症の影響による地域行事の減少等が、少なからず指標の低下に繋がったと分析して

基本目標Ⅰ みんなで考え みんなで汗かき みんなのまちを創ろう

- いる。コロナ禍における地域活動への関わり方など、職員研修などを通じて職員一人ひとりの意識の高揚等に努めていく必要がある。
- ・業務改善や時差勤務等を継続的に実施する中で、職員のワークライフバランスの推進等に取り組んでいく必要がある。

Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】

課題	職員研修の充実及び在宅勤務等の推進	いつまでに
課題解決に向けた方向性（案）	<ul style="list-style-type: none"> ◎職員成長支援計画に基づき、階層別研修などの充実に努める中で、地域で活躍する職員を育成していく。 ◎時差勤務や在宅勤務等を継続して実施するなど、職員の働き方改革に取り組む。 	R5.3

V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

- ・新型コロナウイルス感染症の影響なのか、50周年という節目の行事としては地域の行事に参加したことのある市民の割合が57%と低いと感じる。
- ・市民と一緒に地域活動に取り組んでいる職員の割合が40%と低下している。
- ・テレワークなどIT化が進んでいく中で、現在の職員数が適正なのか。健全な予算を確保するために無駄を節約し、効率を上げていると思われるが、限界が近づいているのではないか。
- ・地域活動の在り方については、本当に見直しが必要と感じられた市民が主体的に活動していくことが難しいようならば、背中を押すような提案や取組みを協働して行うことが必要と考えられる。また地域で人材を育てる仕組みが必要である。
- ・職員のワークライフバランスを考えた働き方改革ということで、時差出勤や在宅出勤に引き続き取り組まれたということだが、これに対するどういった成果や効果があったのか。

目標(2) 将来を見据えた健全な財政運営を行います

I. 目指す姿【PLAN】	
目標達成に向けての考え方	今後の財政見通しでは、公共施設の老朽化に係る財政負担、少子高齢化の進展に伴う社会保障関連経費の増加が見込まれ、市の財政運営に大きな影響を及ぼすことが予想されます。そこで、財政運営に関する情報等を市民と共有するとともに、“入るを量りて、出するを制す”の考え方にも留意し、歳入・歳出の両面から財政基盤の強化に取り組むことが欠かせません。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 市の財政運営に対する理解が深まっています。 ◎ 市税などの財源が確保されるとともに、事業の見直しと重点化により誠に必要な事業が実施され、少子高齢化に見合った持続可能な財政運営が行われています。 ◎ 機能複合化による公共施設の再編、改修による長寿命化等の取組みが市民に理解され、公共施設総合管理計画が着実に推進されています。
目標達成の進捗状況	A:順調 B:一定の進捗あり C:進捗が遅延している D:進捗が大幅に遅れている

目標の達成状況	策定値	実績値 (H30)	実績値 (H31)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	
市民意識調査	【設問】 将来を見据えた財政運営を行っているまちだと思う。(%)						
	46.6	45.1	46.7	43.7	45.2		
みんなで目指すまちづくり指標	経常収支比率 (%)						目標値
	88.8	89.3	88.3	89.4	89.7		80 台維持
	将来を見据えた財政運営が行われていると思う人の割合 (%)						目標値
	46.6	45.1	46.7	43.7	45.2		55

こんなことに取り組みます！	(1) 市の財政運営や税金に関する情報など、市民の知りたい財政情報を積極的にわかりやすく発信します。【財務グループ】
---------------	--

II. 目標達成のための主な取組み【DO】		
	何を・どうした	いつ
①	12月に高浜中学校2年生、2月に翼小学校6年生を対象に総合学習の時間を使って「財政出前授業」を開催した(高浜中学校はオンライン開催)。	R3.12-R4.3
②	「財政出前授業」を開催した際に、財政情報に関するアンケートを行い、その質問に答える「財政だより」を作成し、公表した。	R4.3
③	その内容を保護者や市民と共有するため、市公式ホームページに出前授業内容を掲載しその情報を市公式LINEで情報発信することで大人世代向けのアプローチを行った。	R4.3
④	予算・決算以外にも、基金および地方債の残高や、財政健全化判断比率等をタイムリーに発信した。	R3.4,11

III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】	
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析(要因・課題等)	
<ul style="list-style-type: none"> ・市民調査結果は、令和2年度から1.5%上昇し、45.2%となった。 主な要因は、20歳代の上昇で、前年比10.7%であった。 ・10、30歳代の市民調査結果が33.3%、38.7%と低いことから引き続き「財政出前授業」「動画を活用した授業」を継続する必要がある。 	

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】		
課題	10、30歳代への効果的な財政情報の発信	いつまでに
課題解決に向けた方向性(案)	10、30歳代の関心を高めるため「財政出前授業」「動画を活用した授業」を行い、子どもたちへの情報発信を親子の会話へつなぎ、関心を深めてもらう。また、先進地事例の取組や手法を検討し、試行的に実施する。	R5.3

こんなことに取り組みます！	(2) 工業用地の創出、市税徴収力の強化、受益者負担の適正化など、財源の確保に努めるとともに、真に必要な事業を見極め、限りある財源のより効率的・効果的な活用に取り組みます。【財務グループ】【ICT推進グループ】	
Ⅱ. 目標達成のための主な取組み【DO】		
	何を・どうした	いつ
①	次期改定に向けて、施設別行政コスト計算書を作成した。	R4.3
②	定期的に使用料を見直すマニュアルの検討を進めた。	R3.4-R4.3
③	AIを活用した総合案内サービスを実施し、行政サービスの手続の効率化を図った。	R3.7
④	ペーパーレス会議、通訳サービス、統合型GISによる地図情報の電子化を進めるとともに、テレワークの実施、動画配信によるICT研修の実施など事務の効率化を図った。	R3.4
⑤	市民が来庁しなくても手続等ができるよう、電子申請の拡大などを目的に庁内プロジェクトを設置し検討を行った。	R3.10
⑥	8月に1回、9月に職位に分けて2回、3月に1回、職員を対象とした「市の財政状況説明会」を開催した。	R3.8-R4.3
⑦	予算編成時期より前に行っているサマーレビュー（新規・拡充事業の検討）の時点で、ゼロベースでの事業見直しを掲げ、事業そのものの必要性を再確認するとともに、委託料や補助金等の見直しを行った。	R3.8-9
Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】		
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）		
市民意識調査の結果は令和2年度と比べ、1.5%上昇しているものの平成30年度以来ほぼ横ばいの状態である。その要因として、これまで進めてきた業務の効率化が、市の内部管理業務等に集中していたためと考えられ、今後、電子申請の拡大など市民に直接影響のあるサービスを充実させることで指標の上昇を図る必要がある。		
Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】		
課題	行政手続きの電子申請の拡大と受益者負担の見直し	いつまでに
課題解決に向けた方向性（案）	ぴったりサービス及びあいち電子申請・届出システムにて電子申請することができる各種手続き数を拡大し、市民が来庁しなくても手続きが可能となる手続き数を増やす。また、定期的に使用料を見直すマニュアルづくりを推進する。	R5.3

こんなことに取り組みます！	(3) 公共施設の再編や長寿命化に対する市民の理解を高めるとともに、順次、個別施設計画を策定し、公共施設総合管理計画の着実な推進につなげます。 【財務グループ】【学校経営G】	
Ⅱ. 目標達成のための主な取組み【DO】		
	何を・どうした	いつ
①	「令和3年度版公共施設・インフラ施設推進プラン」に基づき調整を進めた。	R3.4-R4.3
②	定期的に各施設所管部局と「公共施設推進プラン」の進捗状況について情報共有を行った。	R3.4-R4.3
③	1月に公共施設マネジメント推進委員会を開催し、公共施設総合管理計画の改定の方向性等について助言を頂いた。	R4.1
④	6月に「令和3年度公共施設推進プランスケジュール」を公表した。また、3月に「令和4年度版公共施設・インフラ施設推進プラン」を作成し公表した。	R3.6-R4.3
⑤	学校施設の長寿命化計画に基づき、各学校施設の設計等準備を進めた。	R3.4-R4.3
⑥	高取小学校長寿命化改良工事について、国の補助金を受けられるように工事工程等の調整を図り、補助金の申請を行った。	R3.4-R4.2
⑦	高取小学校長寿命化改良工事の実施に向け、学校及び関係各所との調整を行うとともに、設計内容を確定させ、工事費を算定した。	R3.4-R4.2
⑧	吉浜小学校長寿命化改良工事に向け、学校、受託業者と協議を行い、実施設計図の作成及び概算工事費を算定した。	R3.4-R4.3
Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】		
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）		
<ul style="list-style-type: none"> 将来を見据え、公共施設・インフラ施設推進プラン、公共施設推進プランスケジュール、長期財政計画を作成し公表しているが、幅広い年齢層に関心を持ってもらうまでには至っていない。 引き続き、将来を見据えた財政運営のもと、公共施設の大規模改修や建て替えを計画的に行っていく必要がある。 		
Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ◎高取小学校長寿命化改良工事について、内定を受けた国庫補助対象工事を定められた工期内に完了する。 ◎工事の実施にあたり、学校と連携し安全に工事を進める必要がある。 ◎吉浜小学校長寿命化改良工事について、国庫補助を受けられるよう実施 	いつまでに

基本目標Ⅰ みんなで考え みんなで汗かき みんなのまちを創ろう

	する必要がある。	
課題解決に向けた方向性（案）	◎高取小学校長寿命化改良工事にあたり、工事監理を事業者と連携し行い、計画的に工事の進捗管理を行う。	R4.7
	◎事業者及び学校との工事管理定例会を開催し、計画的かつ安全な工事の実施を図る。	R4.7
	◎吉浜小学校長寿命化改良工事の実施設計を精査し、国庫補助を受けられるように工事工程を調整する。	R5.1

V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

<ul style="list-style-type: none"> • 課題と今後の取組みにぴったりサービス及びあいち電子申請・届出システムに関する記載があるが、こんなことに取り組めます（2）との関係性がわからない。 • 目標の達成状況と結果分析に「幅広い年齢層に関心を持ってもらうまでには至っていない」とあるが、このことについて課題解決に向けた方向性への記載がない。 • 電子申請でできる各種手続きを増やすにしても周知が十分にできていないと思う。また新たな申請ができる時には速やかな周知が必要だと思う。 • 学校耐震化について幅広い世代に関心をもってもらうに至っていないのではと分析されているがそれに向けた取組みがない。 • 学校が「地域に開かれた場」として地域のこととして関心をもってもらえるような学校のあり方や丁寧な説明が必要である。 • 受益者負担に関して、次期改定に向けて、施設別行政コスト計算書を作成し、定期的に使用料を見直すマニュアルの検討を進めたということであるが、そもそも公共施設の使用料について、定期的に見直しをしていなかったのか。 • 行政コストの計算書に基づいて、どのように受益者負担を適正化するのか知りたい。また、使用料は公にしていけないといけませんが、改定サイクルについては考えているのか。 • セキュリティ面に関して、どのようなシステム、対策を取られているのか。

目標(3) 学び・文化・スポーツの輪を広げ、まちのチカラを育みます

I. 目指す姿【PLAN】	
目標達成に向けての考え方	学び・文化・スポーツは、人づくりやまちづくりの土台となるものです。市民・地域・関係機関・事業者と連携し、学びなどを通して市民同士が個々の力を高め合うとともに、つながりを深めながら「高浜市が好き」「誰かのために役立ちたい」「住んでいるまちをよりよくしたい」といったまちづくりの原動力を育てていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 個人が培ってきた知恵・特技・体験などが、人づくりやまちづくりに活かされ、子ども・若者や大人がともに成長しています。 ◎ 学び・文化・スポーツ活動を通して市民同士の交流が深まり、「高浜市が好き」「市民や地域のために何かやってみよう」という市民が増えています。 ◎ 先人たちのあゆみやまちの魅力・自慢が市民共有の財産として継承され、まちづくりに活かされています。
目標達成の進捗状況	A:順調 B:一定の進捗あり C:進捗が遅延している D:進捗が大幅に遅れている

目標の達成状況	策定値	実績値(H30)	実績値(H31)	実績値(R2)	実績値(R3)	実績値(R4)	
市民意識調査	【設問】学び(生涯学習やスポーツなど)を通して、人と人がつながり、まちづくりを担う人が育っているまちだと思う(%)						
	55.2	53.4	54.6	51.9	52.0		
みんなで目指すまちづくり指標	高浜市に愛着や誇りを持っている人の割合(%)						目標値
	71.4	66.4	67.6	68.2	64.0		76
	将来の夢・希望・目標を持っている子どもの割合(%)						目標値
	76.1	75.8	69.6	75.5	73.9		81
	持っている知識・特技・体験などを地域や社会活動に活かしている人の割合(%)						目標値
	28.5	27.9	30.3	30.8	28.7		35

こんなことに取り組みます！ (1) 市民とともにまちの魅力・自慢(歴史・文化・伝統・産業・景観など)を掘り起こし、守り、伝え、活かしていく活動を強化します。【文化スポーツグループ】

II. 目標達成のための主な取り組み【DO】	
何を・どうした	いつ
① 『高浜市のあゆみ』本編を発刊した。えんちよこ獅子の歴史や継承活動をまとめる『高浜市のあゆみ資料⑤』作成のための資料調査を実施した。	R3.4-R4.3
② 「市誌を読む会」「たかはま 歴史・まちづくりシンポジウム」を開催し、老若男女幅広い世代に市の魅力や自慢を知ってもらい、学びのきっかけとなる場を提供した。	R3.11-R4.3
③ 資料整理や市の歴史・文化の普及等において、市誌編さんに5年間関わってきた市民に加え、新たなメンバーを発掘するよう、事業参加者等への声掛けなどを行った。	R3.11-R4.3
④ これまで奇数月の広報で掲載してきた「市誌編さんだより」、広報裏表紙に掲載中の「たかはまアーカイブ」を通して、『高浜市のあゆみ』完成の報告や、調査成果・行事の告知等を行った。「市誌編さんだより」は令和3年12月号をもって終了した。	R3.4-R4.3
⑤ 市誌編さん事業で集まった資料や資料館で保管されてきた資料、さらには今後市内から掘り起こされる資料の整理・リスト整備・データ化を行い、市内でのミニ展示等において資料の活用を行った。	R3.4-R4.3

III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】	
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析(要因・課題等)	
<ul style="list-style-type: none"> ・市民意識調査の「学び(生涯学習やスポーツなど)を通して、人と人がつながり、まちづくりを担う人が育っているまちだと思う」は、平成30年度からほぼ横ばいである。令和3年度に発刊した『高浜市のあゆみ』を活用し、まちのことを「知りたい」といった興味・関心、まちの魅力・自慢を生かした取り組みを「やってみよう」といった意欲につながるような機会を様々な観点から設けていく必要がある。 ・みんなで目指すまちづくり指標のうち「高浜市に愛着や誇りを持っている人の割合」が令和2年度より4%の減となっている。世代別の回答を見ると、10~30歳代の数値が40代以上に比べて低い。若い世代に対して、まちの魅力・自慢が伝わるようにしていく必要がある。 	

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】		
課題	<p>◎市誌編さん事業で蓄積した「まちの魅力・自慢（歴史・文化・伝統・産業・景観など）」に関する資料やデータを、いかに市民同士の学び合い・高め合いに役立てていくか。</p> <p>◎『高浜市のあゆみ』の発刊やその関連行事を契機に、市民の自発的な学びをどのように活性化させ、愛着・誇りの醸成につなげていくか。</p>	いつまでに
課題解決に向けた方向性（案）	<p>◎「市誌を読む会」や「ミニ展示」のほか、新たに「まち歩き会(仮称)」を開催するなど、様々な角度から「まちの魅力・自慢（歴史・文化・伝統・産業・景観など）」を“見る・聞く・知る”機会を設ける。</p> <p>◎『高浜市のあゆみ』に掲載しきれなかったテーマについて補足調査を継続する。愛知県無形民俗文化財「えんちょこ獅子」をテーマに『高浜市のあゆみ資料⑤』を発刊する。調査・執筆活動を通して、市民がまちの魅力・自慢に目を向ける、自ら調べるといった機会の一助としていく。</p> <p>◎市誌編さん事業で収集した資料の整理、リスト化などを行い、今後市民が気軽に検索・閲覧・活用できるようにする。</p> <p>◎広報連載「たかまアーカイブ」の記事の執筆に市民も関わってもらうことで、「自ら学び、その成果を人へ伝える」機会を広げていく。</p>	<p>R4.10</p> <p>R5.3</p> <p>R5.3（※R5年度以降も継続）</p> <p>R5.3</p>

こんなことに取り組みます！	<p>(2) 市民（特に子ども・若者）の「知りたい」「やってみたい」「役立ちたい」を応援し、市民同士が学び合い、高め合う場づくりを進めます。【文化スポーツグループ】</p>
---------------	--

II. 目標達成のための主な取組み【DO】		
	何を・どうした	いつ
	<p>【図書館】</p> <p>① 自由研究のテーマ本をセットにした「なに？なに？発見隊バッグ」や「夏休み宿題応援窓口」を行い、子どもの「わからない・困った」のサポートや、「知りたい」の応援など、学ぶ意欲を高める機会を設けた。また図書館内に「いきいき認知症相談室」（特集コーナー）を設置するなど、図書による相談支援や将来の図書館運営を意識した取り組みを行った。</p> <p>【美術館】</p> <p>② 「ボン・ヴォアージュ展」「時の迷路と瓦の歴史展」といった子どもから大人まで楽しめる展覧会、アート・歴史・瓦がコラボした展覧会を開催した。給食時間を活用した展覧会紹介を行った。ものづくり、映像、音楽など展示理解が深まるような関連行事を実施した。文化協会会員や鬼師によるワークショップなど、市民同士が学びあう機会を提供することができた。</p> <p>【生涯学習基本構想】</p> <p>③ 第3次高浜市生涯学習基本構想の策定基本方針を定め、見直しに着手した。</p> <p>【美術館・図書館のあり方】</p> <p>④ 図書館フォーラム（3回）や出張座談会（読み聞かせボランティアや子ども・まちづくり活動にゆかりの深い団体との意見交換）の開催、広報連載「これからの図書館カタチ・チカラ」などを通して、高浜市が目指す図書館の今後の方向性について市民と共有した。</p> <p>⑤ 図書館機能を様々な活動と交じり合う相乗効果が期待できる「いきいき広場」「かわら美術館」へ機能移転する方針を決定した（令和4年3月議会において「高浜市やきものの里かわら美術館・図書館の設置及び管理に関する条例」可決）。</p>	<p>R3.4-R4.3</p> <p>R3.4-R4.3</p> <p>R3.11～</p> <p>R3.4-R4.3</p> <p>R4.3</p>

III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】		
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）		

<p>・「持っている知識・特技・体験などを地域や社会活動に活かしている人の割合」は、令和2年度より微減である。</p> <p>「知識等を活かす」ことへのハードルが高いと思われぬよう、様々な関わり方があることを示し、背中を押していく必要がある。</p> <p>・「将来の夢・希望・目標を持っている子どもの割合」も昨年度より微減である。小学校6年生から減少が著しく、中学校3年生では半数が「夢・希望・目標」がないと回答している。学年が上がるにつれ、将来の岐路に立つ際（就職や進学）の不安や迷いが生じるためと推測される。</p>

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】		
課題	<p>◎子ども・若者が「知りたい」「やってみたい」といった好奇心や学ぶ意欲を刺激する取組み、環境づくりに取り組んでいく必要がある。</p> <p>◎市民が持っている知恵・特技・体験等を学びの場に活かせる機会を、関係機関・団体とも連携しながら、様々な場面で設けていく必要がある。</p>	いつまでに

基本目標Ⅱ 学び合い 力を合わせて 豊かな未来を育もう

課題解決に向けた方向性 (案)	① 令和5年度からの供用開始を目指す「かわら美術館・図書館」の準備を進め、「みんなで美術館」や「くらしや生き方をささえる図書館」などのコンセプトを基にした取組みを進める。(例：下記②③)	R5.3
	② 夏休みには図書館と各小学校が協力し、「小学校の先生からの挑戦状」と題した、百科事典や図鑑を活用した取組みを実施し、好奇心や調べる意欲を高める機会(発見のきっかけ)を設ける。	R4.8
	③ 美術館では、展覧会だけでなく、市民が教え手となったワークショップ、「見る・聞く・触れる」といった好奇心や感性を高める創造活動を進めていく(例：給食時間を活用した展覧会に関する動画上映、夏休み企画「かわら美術館であそぶ夏」など)。	R5.3
	④ 本市における今後10年間の学び・文化・スポーツの方向性を定める「第3次高浜市生涯学習基本構想」を策定する。	R5.3
	⑤ 読書活動を通じた子どもの成長を支援するため、「第3次子ども読書活動推進計画」を策定する。	R5.3

こんなことに取り組みます!	(3)「いつでも・だれでも・どこでも・いつまでも」気軽に楽しめるスポーツ・レクリエーションの機会をつくり、市民交流の場を充実します。【文化スポーツグループ】
---------------	--

Ⅱ. 目標達成のための主な取組み【DO】

何を・どうした	いつ
① パラリンピック聖火フェスティバルを実施した。スポーツへの関心を高める取組みとして、地域交流施設たかぴあ(エントランスホール)において、東京オリンピック・パラリンピック特集展示を行い、聖火リレーに参加した市民や、高浜市出身の出場者の活躍ぶりなどを広く紹介した。	R3.8-R4.2
② 高浜小学校との複合施設である地域交流施設たかぴあが、全面供用開始した。	R3.4
③ 公共施設総合管理計画に基づき体育センターの解体を工事業者と協議を行い、実施した。また、解体後、一部駐車場の整備を実施した。	R3.4-R4.3

Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析(要因・課題等)
<ul style="list-style-type: none"> 市民意識調査の「学び(生涯学習やスポーツなど)を通して、人と人がつながり、まちづくりを担う人が育っているまちだと思う」は平成30年度よりほぼ横ばいである。 みんなで目指すまちづくり指標「持っている知識・特技・体験などを地域や社会活動に活かしている人の割合」「高浜市に愛着や誇りを持っている人の割合」「将来の夢・希望・目標を持っている子どもの割合」はいずれも、令和2年度よりも減となっている。

Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】

課題	<ul style="list-style-type: none"> ◎スポーツは人と人とのつながりを生むほか、持っている技能・体験等を活かす上でも非常に有効である。また、まちへの愛着・誇り醸成の一助ともなるため、スポーツへの興味・関心が高まる工夫、魅力等に触れることができる機会を設けていく必要がある。 ◎年齢、技能、体力を問わず、気軽にスポーツ・レクリエーションに参加できる機会を設けていく必要がある。 	いつまでに
課題解決に向けた方向性(案)	① 高浜市ならではの生涯スポーツ「レガッタ」のすそ野を広げるため、小学生を対象にした体験会を実施する(郷土の学習も兼ねる)。	R4.7
	② スポーツ推進委員や総合型地域スポーツクラブであるたかひまスポーツクラブと連携し、年齢や体力等を問わず気軽に取り組めるニュースポーツの勉強会や普及活動を実施する(例：ポッチャ、スナックゴルフ、太極拳、スポーツ鬼ごっこ)。	R5.3
	③ あこがれ、技能向上、まちの自慢・誇りの一助となるよう、全国大会等に出場している市民(特に子ども)の活躍ぶりについて、情報収集・発信する。	R5.3

V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

- みんなで目指すまちづくり指標の愛着や誇りを持っている人の割合が落ちた原因はどのような考えるか。
- 課題解決に向けた方向性に第3次高浜市生涯学習基本構想、第3次子ども読書活動推進計画に策定するとあるが、課題とのつながりがわかりにくい。
- スポーツの内容ばかりが書かれており、高浜市としては何に力を入れてやっていくのかわからず、方向性がないように感じられる。
- 生涯学習の基本構想、策定基本方針を定めて見直しに着手されるということだが、暇と金と体力が余っている人が楽しむような生涯学習はもうやめてもらいたい。それよりも5つあるまちづくり協議会を継いでくれる人が育つような市民教育を開発される方向に大転換するべきじゃないかと思う。
- 全体に結果分析がされていない。
- 自発的な学びにより愛着や誇りをまちに持つには、若い世代へのアプローチが不十分である。
- 若い世代が気軽に参加したいと思う魅力的なもの・ことを創出してほしい。

目標（４）学校・家庭・地域が連携を深め、12年間の学びや育ちをつなげます

I. 目指す姿【PLAN】	
目標達成に向けての考え方	学校、家庭、地域が「子どもの学びや育ちをつなげる」という意識をもち、力を合わせます。
目標が達成された姿	◎ 子どもが、自分の成長に気づいたり、目標を抱いたりしています。 ◎ 子どもが、地域に関心をもち、自分ができることを考え、実践しています。 ◎ 子どもが、主体的・対話的で深い学びをしています。 ◎ 子どもが、個に応じた教育を受け、個性を伸ばさせています。
目標達成の進捗状況	A:順調 B:一定の進捗あり C:進捗が遅延している D:進捗が大幅に遅れている

目標の達成状況	策定値	実績値 (H30)	実績値 (H31)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)		
市民意識調査	【設問】学校・家庭・地域が連携し、子どもの12年間（4歳～15歳）の学びや育ちを育む体制が整っているまちだと思う（％）							
	58.8	62.0	64.0	61.3	61.6			
みんなで目指すまちづくり指標	自分や周りのよさを認める子どもの割合（％）							目標値
	78.5	90.3	88.1	89.8	89.2		85	
	地域や社会に関心をもつ子どもの割合（％）							目標値
	59.2	74.5	71.9	71.4	70.9		70	
	学習が将来、役立つと感じている子どもの割合（％）							目標値
	76.7	80.4	77.3	80.9	80.2		85	

こんなことに取り組みます！	（１）異校種間連携事業で、自分や周りのよさに気づいたり、よさを活かしたりできるよう、支援します。また、異校種参観で教師力を向上させ、子どものよさを引き出す指導を展開します。【学校経営グループ】
---------------	--

II. 目標達成のための主な取組み【DO】	
何を・どうした	いつ
① 異校種間連携推進委員会において、子どもが意欲的に生活するための効果的な取組について、情報共有した。	R3.4,R4.2
② 異校種への参観がしやすい環境をつくり、6月から12月までの間に、希望者を中心に異校種参観を実施した。また、異校種間連携推進委員会において、校内における異学年参観の取組について情報共有した。	R3.6-12
③ 異校種間連携推進委員会において、連携して実践できるより主体的な取組について検討した。	R3.4,R4.2

III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】	
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）	
<ul style="list-style-type: none"> 市民意識調査の結果が令和2年度よりやや上昇したのは、幼保小中が連携した取組を令和2年度より実施することができたからだと考える。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施することができない学校や園もあったことから、十分には市民に伝わらなかった部分もあると考える。 「学習が将来、役立つと感じている子どもの割合」がやや低下した。これは新型コロナウイルス感染症の影響で話し合い活動や関わり合う活動に制限があったため、学習が役立つ経験が少なくなり、目標値には近づくことができなかったと考える。一方、一人一台タブレットの導入から約1年が経ち、活用に慣れてきて、今後の学びの深化に期待ができる。 	

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】	
課題	いつまでに
課題解決に向けた方向性（案）	異校種間連携事業と異校種参観の検討と実践 ◎異校種間連携事業について、コロナ禍であろうとも子どもが自分や周りのよさに気づき、よさが発揮できるような取組を検討し、実践していく。 ◎さまざまな授業を参観できるような環境を整え、教師が子どものよさを引き出す指導力を高めることができるような異校種参観を検討し、実践する。
	R5.3

こんなことに取り組みます！	<p>(2) 高浜カリキュラムで、高浜の人・もの・ことを活かした教育を実践します。また、活用型のカレンダーを使って「高浜市が育てていきたい子どもの姿」を周知します。</p> <p>(3) 高浜カリキュラム教科版で、優れた授業実践案を集約・活用したり、ICTを活用した授業や、高浜版プログラミング教育を実践したりして、主体的・対話的で深い学びを支援します。【学校経営グループ】</p>
---------------	---

II. 目標達成のための主な取組み【DO】

何を・どうした	いつ
① 高浜版プログラミング教育の全体カリキュラムに即して、全小学校において、児童の発達段階に応じた授業を行った。また、ICTを活用した授業実践について、高浜版ギガスクール構想推進委員会において、情報共有を行った。	R3.4-R4.2
② 高浜版 CAN-DO リストのよさを周知し、活用した授業実践について、外国語教育推進委員会において、情報共有を行った。	R3.5,12
③ 高浜カリキュラムにおいて、実践内容を検討し、高浜カリキュラム教科版において、優れた指導事例を集約した。	R3.4-R4.3
④ 「高浜市が育てていきたい子どもの姿」を見直し、またそれをより意識しやすくするため、カレンダーの構成を見直した。	R3.4,R4.1

III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）	
<ul style="list-style-type: none"> ・「高浜市が育てていきたい子どもの姿」を周知しているカレンダーは家庭や地域において活用が定着しているが、学校・家庭・地域が連携して子どもを育てる意識へのつながりについてはさらなる向上を期待する。連携を意識できるような取組が必要である。 ・地域や社会に関心をもつ子どもの割合が下がったのは、新型コロナウイルス感染拡大防止策を行ったため、高浜カリキュラムが十分に実施できないこともあり、地域の人やもの、ことを活用できなかった学校が多かったからだと考える。そのような直接的な関わりをもつことができない中でも、目標値を上回ったのは、ICT機器を活用して工夫した授業を実践できたためである。 	

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】

課題	高浜カリキュラムの見直しと実践の継続	いつまでに
課題解決に向けた方向性（案）	<ul style="list-style-type: none"> ◎地域や社会に対する関心をよりもたせるために、子どもの実態や社会の状況に応じた内容のカリキュラムを検討し、再構成する。 ◎学校・家庭・地域が連携して子どもを育てる意識を高めるために、今まで継続してきた「高浜市が育てていきたい子どもの姿」を周知するカレンダーの取組を大切にしつつ、効果的な取組の内容を検討し、実践する。 	R5.3

こんなことに取り組みます！	<p>(4) 支援の必要な児童生徒の特別支援ファイルの作成と引継を確実にを行うシステムを構築します。また、教職員の特別支援教育への理解をより深めるとともに、指導力・実践力の向上をめざした研修を充実します。【学校経営グループ】</p>
---------------	--

II. 目標達成のための主な取組み【DO】

何を・どうした	いつ
① 3回の特別支援教育コーディネーター連絡会で、改訂を行った特別支援ファイルの形式や、作成方法について確認を行った。「保護者が記入するページ」や「個別の指導計画」について、精選した内容について今後も検討を重ねていく。	R3.4-R4.2
② 特別支援ファイルの引継ぎ方法について、令和2年度末に確認を行った。令和3年度も幼保と小、小と中、中と高の情報共有を行った。	
③ 2年目・3年目教員を対象に体験研修を行った。また、8月に2年目、3年目教員に加え学校で特別支援を必要とする児童生徒に関わるスクールアシスタント、スクールサポーターを対象に研修会を実施した。通級担当者研修を6月、11月、2月に実施した。さらに、特別支援教育コーディネーターに特別支援教育コーディネーターガイドブックや特別支援教育に関する事例集を配付することで、校内の活動を充実できるようにした。	
④ 例年他部局と連携して、保護者向けに特別支援教育についての就学、進学に関する研修会を実施してきたが、コロナ禍であり実施ができない状況にあった。そのため、高浜市特別支援教育だより「てとて」を使って、情報を発信できるようにした。	

III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）	
<ul style="list-style-type: none"> ・市民意識調査における結果は微少ではあるが上昇している。これは、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、保護者に就学、進学に関する情報や学校の支援体制についての情報の発信をした結果であると考え。継続して保護者に情報の発信をしていくことが必要であると考え。 ・自分や周りのよさを認める子どもの割合について目標値を上回る結果が継続している。これは、特別支援教育に関する研修を充実させていることで、教師の特別支援教育に対する理解が深まり、子ども一人一人のよさを認める取組が実践されているからだと考える。 	

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】		
課題	情報発信の充実と特別支援教育に対する理解の浸透	いつまでに
課題解決に向けた方向性（案）	◎保護者向けの研修会、教育相談の場を充実させる。 ◎特別支援教育への理解をより深め、子どもに還元できるように研修の機会を充実させる。	R5.3

V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

- この計画では、目標で定める前から、地域ということが主体として出てきている。以前、行政に対して地域というのは風景なのか、主体なのかと質問したことがあるが、学校には、地域を主体と捉えていただき、地域における教育主体、地域教育の主体は一体どこが担うべきなのか、もう少し明確に記述していただきたい。例えば、ぼんやりと地域の人にやってもらいたいでは単なる期待であって、計画にならないので、まちづくり協議会が地域教育を担うのかどうか、考えていただきたい。
- 学校・家庭・地域が連携し、子どもの学びや育ちを育む体制が整っているまちだと思う、という市民意識調査の設問に対応した、地域のシステム開発を、学校側としても要望をはっきりお出しになるべきである。いわゆる社会教育というものの中における地域教育の在り方をもう少し明確にしていきたい。
- 最近、刈谷高校や半田高校にて中高一貫教育が決定し、中学生が流出していってしまうのではないかと心配している。
- 地域は子供を見守るだけでなく育てる場でもあるので交流できる機会を増やしたり、よき見本となる大人の姿を示し子供の育ちを支援してほしい。
- 課題にて異校種参観を検討していくとあるが、どういう形で発展させていくのか。
- 目標（4）として学校・家庭・地域が連携を深めとあるので、それぞれの主体がはっきりする必要があると思う。例えば、子どもが地域に関心を持ち、自分ができることを考え、実践していますとの記載があるが、文部科学省が学校におけるクラブ活動を地域にお願いしたいと言っていることについて、関係する具体的な記述はどのあたりで対応しているのか。

目標(5) 子育て・子育てを支える環境を整えます

I. 目指す姿【PLAN】	
目標達成に向けての考え方	行政、地域、保護者の職場となる企業なども積極的に関わり、子どもが健やかに遊び、成長し、また、保護者が安心して子どもを産み育てることができるよう、子育て・子育てを総合的に支援する環境を整えていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 安心して子どもを産み育てられる教育・保育環境や保護者が働く職場環境が整っています。 ◎ 身近な大人をはじめ、市内の大人が子どもの目線を大切にし、子どもの遊びや成長を温かく見守る視点が常に共有されています。 ◎ 日頃から子どもが気軽に集え、自然に世代間交流ができ、子どもがのびのびと活動できる身近な場所が整っています。
目標達成の進捗状況	A:順調 B:一定の進捗あり C:進捗が遅延している D:進捗が大幅に遅れている

目標の達成状況	策定値	実績値(H30)	実績値(H31)	実績値(R2)	実績値(R3)	実績値(R4)	
市民意識調査	【設問】子育て・子育てを支える環境が整っているまちだと思う(%)						
	54.7	55.5	60.5	56.8	57.7		
みんなで目指すまちづくり指標	子どもを産み育てやすいと感じている人の割合(%)						目標値
	66.0	65.9	64.4	66.7	62.2		70
	子どもに対して理解のある大人の割合(%)						目標値
	66.2	70.1	72.0	69.1	69.5		94
	待機児童数(人)						目標値
	17	19	11	23	16		0

こんなことに取り組みます!	(1)「高浜市子ども・子育て支援事業計画」に沿って、多様で柔軟な保育サービスの提供など、教育・保育ニーズに対応し、待機児童ゼロをめざします。【こども育成グループ】
---------------	---

II. 目標達成のための主な取組み【DO】		
	何を・どうした	いつ
①	令和3年4月1日より家庭的保育「からんこえ」を小規模保育「からんこえ」として3歳未満児の受け入れ枠を5名拡充した。	R3.4
②	更に待機児童対策として子ども・子育て支援事業計画を踏まえ地域型保育事業の拡充について検討を進めた。	R4.3

III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】	
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析(要因・課題等)	
「子育て・子育てを支える環境が整っているまちだと思う」、「子どもに対して理解のある大人の割合」は増加し、「待機児童数」は減少している。引き続き待機児童数を目標値に近づける対応を進める。	

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】		
課題	待機児童への対応	いつまでに
課題解決に向けた方向性(案)	子ども・子育て支援事業計画で示すように、人口動向やニーズを踏まえて、引き続き柔軟な対応が可能である地域型保育事業による受け入れ枠の拡充を検討する。	R5.3

こんなことに取り組みます!	(2)子どもの想いを理解し、子どもの視点に立って、子育て・子育てを支える大人を増やしていきます。 (3)身近な場所に、子どもの自主性・社会性をはぐくめるよう、自然に世代間や異年齢交流などができる場を増やしていきます。【こども育成グループ】
---------------	--

II. 目標達成のための主な取組み【DO】		
	何を・どうした	いつ

① 子育て家族支援者養成講座及び地域向け子育て支援講座を予定どおり実施した。	~R4.3
② ポータルサイトやメールマガジンを活用し、子育て中の保護者が知りたい情報（例えば子育て支援センターや児童センター等の各種行事等の情報）を随時発信した。	~R4.3
Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】	
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）	
<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもを産み育てやすいと感じている人の割合」が減少している。 ・コロナ禍により、人と接する機会が減少したことが、子どもを産み育てることが難しいと感じている要因ととらえている。子育てに必要な情報につながる仕組みづくりを構築していくことが求められる。 	
Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】	
課題	ICTを活用した情報発信の拡充
課題解決に向けた方向性（案）	いつまでに
	<ul style="list-style-type: none"> ◎コロナ禍により、対人での対応に抵抗を感じたり、制限がなされることにより、知りたい情報が得られにくい環境となっている。 ◎保育園や子育ての情報を YouTube や LINE で配信するなど、SNS 等を活用した情報発信を行い、個々が孤立しないように努めていく。
	R5.3

V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

<ul style="list-style-type: none"> ・課題に「ICTを活用した情報発信の拡充」、課題解決に向けた方向性に「コロナ禍により、対人での対応に抵抗を感じたり、制限がなされることにより、知りたい情報が得られにくい環境となっている」と記載があるが、課題と解決に向けた方向性が逆になっているのではないか。 ・こんなことに取り組みます（1）（2）ともに結果分析がない。 ・「自然に世代間や異年齢交流などができる場」について課題解決に向けた方向性で触れられていないが、交流の場が不足しているということなのか。ポータブルな情報発信だけでなく参加体験の場を提供していくこともコロナ禍だが大切にしてほしい。 ・みんなで目指すまちづくり指標にて、子どもに対して理解のある大人の割合が69.5%、目標値が94%とあり、結構差があると思う。また、理解のある大人の割合が69%ということは理解のない大人が30%いるということになるが、今後どうやって増やしていくのか。 ・子育て家族支援者養成講座及び地域向けの子育ち子育て支援講座を予定どおり実施したとあるが、どれくらいの参加者、頻度で行われているのか。
--

目標（6）産業を活性化して、まちを元気にします

I. 目指す姿【PLAN】	
目標達成に向けての考え方	産業は、まちに活力を生み出し、市民の働く場の確保や所得を得て、消費の場となるなど、安定した市民生活を支える基盤です。優良農地の保全をしつつ、地場産業の振興、企業誘致の促進、企業や事業者の新たな取組みや意欲・挑戦を応援していきます。
目標が達成された姿	◎ 産業活動が活発に行われ、市内の雇用が安定しています。 ◎ 市内事業者の受注機会が増え、売り上げが増加しています。 ◎ 市民が地域資源を掘り起こし、新たな視点も加え、まちの魅力を高めています。 ◎ まちの魅力に触れようと市内外から多くの人々が訪れてきています。
目標達成の進捗状況	A:順調 B:一定の進捗あり C:進捗が遅延している D:進捗が大幅に遅れている

目標の達成状況	策定値	実績値 (H30)	実績値 (H31)	実績値 (R2)	実績値 (R3)	実績値 (R4)	
市民意識調査	【設問】産業が活性化して、まちが元気になっていると思う (%)						
	21.0	27.7	26.7	27.9	28.0		
みんなで目指すまちづくり指標	市内の法人数（社）						目標値
	919	937	946	946	984		930
	行政がかかわるイベントの来場者数（人）						目標値
	86,000	89,000	68,000	43,000	54,000		100,000
	製造品出荷額等（億円）						目標値
	5,123.5	4,465.8	5,680.1	5,361.2	国で統計中		6227.7

こんなことに取り組みます！	（1）農地とのバランスを考慮しつつ新たな工業用地を創出し、企業誘致を進めるとともに、既存企業の投資意欲を高める支援策を推進します。 【都市計画グループ】【経済環境グループ】
---------------	---

II. 目標達成のための主な取組み【DO】	
何を・どうした	いつ
① 小池町地区の早期造成工事の着手に向け、関係者や関係機関と協議・調整を実施した。	R3.4-R4.3
② 過去に補助金を交付した企業に対して景気動向などのヒアリングを実施した。	R3.4-R4.3
③ ジャンボ落花生の耕作面積拡大のため、畑だけでなく、転作地で麦の収穫後に栽培してもらえよう働きかけを行った。また、通常に流通しているジャンボ落花生とは違う独自の品種の試験栽培を行った。	R3.4-11
④ 生産者による品質のばらつきを無くすため、ジャンボ落花生の栽培のこよみを作成して、栽培方法の統一化を図った。また、試験栽培協力農家でほ場の土壌分析を行い、分析結果をもとに肥料の調整を行った。ジャンボ落花生品評会を毎年開催することにより、質の高さを競い合うことで品質向上に繋がった。	R3.5-10
⑤ 令和2年度に引き続き、イオンモールにて販売を行った。また、試験栽培を行った落花生のJAあいち中央産直への出荷用として、「でか落花生」のオリジナルラベルを作成し、生産者へ配布した。「でか落花生」をふるさと納税の返礼品にするための調整をした。	R3.8-11

III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】	
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）	
引き続き、投資意欲の高い企業の誘致や市内企業の設備投資を促す必要がある。また、引き続き、高浜市独自の「でか落花生」の定着を図る必要がある。	
IV. 課題と今後の取組み【ACTION】	
課題	高浜市独自の「でか落花生」として定着させるために、毎年安定した収量が必要である。
いつまでに	
課題解決に向けた方向性（案）	土壌分析によるほ場の環境整備と、栽培方法の統一化により、高い品質の構築と収量の増加を図る。
	R5.3

こんなことに取り組みます！	(2) 災害による風評被害の払しょくや伝統性を活かした商品開発、ブランド化など、地場産業である三州瓦の優位性やデザイン性をPRするため、「高浜市みんなで三州瓦をひろめよう条例」を推進します。【経済環境グループ】	
II. 目標達成のための主な取組み【DO】		
	何を・どうした	いつ
①	高浜市三州瓦屋根工事等奨励補助及び高浜市三州瓦シャモット利用補助による三州瓦製品の利用拡大を図った。	R3.4~
②	伝統的工芸品月間国民会議全国大会に参加し、伝統的工芸品である三州鬼瓦工芸品を含めた三州瓦製品のPRに対する支援を行った。	R3.11
③	「2022 愛知県三河の窯業展」(「建築・建材展 2022」に出展) 開催の支援を行った。	R4.3
④	愛知県陶器瓦工業組合が実施した、三州瓦シャモットの防草性に関する実験結果を「2022 愛知県三河の窯業展」(「建築・建材展 2022」に出展) の開催時に周知した。	R4.3
⑤	屋根瓦の葺き替えの促進・耐風対策のため、耐風診断に係る補助制度を創設した。	R4.3
III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】		
「市民意識調査」「みんなが目指すまちづくり指標」結果に対する分析(要因・課題等)		
市民意識調査では、産業が活性化してまちが元気になっていると思う、と回答した市民は28.0%であり、過去3年横ばいで推移している。今後、瓦産業を活性化させていくためには、ブランド化、伝統産業としての価値の創出とともに、屋根材としての瓦の優位性の効果的なPRが必要である。		
IV. 課題と今後の取組み【ACTION】		
課題	◎三州瓦のブランド化、伝統産業としての価値の創出をするために、瓦産業の承継に加え、瓦製品の付加価値を向上させる必要がある。 ◎屋根材としての瓦の優位性を、継続的・効果的にPRを行う必要がある。	いつまでに
課題解決に向けた方向性(案)	◎瓦産業の技術承継及び屋根葺き技術の保持に対する支援とブランド力(伝統産品としての販売力)の向上に対する協力をする。 ◎業界による屋根材の優位性の周知・PRに対する支援を行う。	R5.3

こんなことに取り組みます！	(3) 高浜高校SBPを支援し、高浜市の産業を全国的にPRするなど、ビジネス手法を用いた若い世代の育成支援をします。【経済環境グループ】	
II. 目標達成のための主な取組み【DO】		
	何を・どうした	いつ
①	地元Bリーグクラブ「シーホース三河」と連携を図り、Sの絆焼き活動(タツヲ焼きプロジェクト)を継続してきたことで、全国のBリーグファンからも応援をいただける活動に進化しつつある。また、西三河の子ども食堂を訪問し、子どもたちにタツヲ焼きと笑顔をお届けすることができた。 ※タツヲ焼きプロジェクト：タツヲ焼きの販売収益で、地域に笑顔を還元するプロジェクト	R3.4-R4.3
②	コロナ禍による活動制限により全国の高校生との交流を図ることが困難な状況ではあったが、いまできることを確実に実行し、近隣高校の高校生が作ったジャムとのコラボ商品を販売することができた。	R3.10
III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】		
「市民意識調査」「みんなが目指すまちづくり指標」結果に対する分析(要因・課題等)		
タツヲ焼きプロジェクトの取組みが、全国のBリーグファンから共感いただくことができ、シーズンオフに開催されたBリーグアワード(表彰式)において、素晴らしい取り組みであることが評価された。そして、高校生たちは、卒業する際に、タツヲ焼きプロジェクトは、自分の宝物であり、一生忘れることのない取り組みであったことを応援いただいた皆様に伝えていた。		
IV. 課題と今後の取組み【ACTION】		
課題	全国のBリーグチームから、タツヲ焼きの出張販売の依頼をいただいている。しかし、出張販売するだけでなく、全国の高校生たちと連携し志をひとつにした取り組みに繋げることが必要である。	いつまでに
課題解決に向けた方向性(案)	全国の高校生と志をひとつにしたタツヲ焼きプロジェクトの展開を図る。	R5.3

こんなことに取り組みます！	(4) 高浜市観光協会や関連団体が行うイベントや高浜市のPRに対し人的支援、活動支援をします。【経済環境グループ】	
II. 目標達成のための主な取組み【DO】		
	何を・どうした	いつ
①	例年、高浜市を含む広域観光団体が主催するイベント等で情報発信をしていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により実施することができなかった。しかし、イオンモールで行われた愛知・名古屋観光誘客協議会観光展でパンフレットを配布し、PRすることは	R4.3

きた。		
② 鬼みちまつりは、新型コロナウイルス感染症の影響により、実施できなかったが、感染対策を十分に行ったうえで、12月18日から12月25日までの期間、オニルミ【オニイルミネーション】を開催することができた。		R3.12
③ 新型コロナウイルス感染症の影響により、観光事業全体の展開が厳しく、十分な収益を確保することができなかったが、オニマルシェを年9回開催することができた。		R3.4-R4.3
Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】		
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）		
新型コロナウイルス感染症の影響により計画していたイベントが中止となったが、できる範囲内で開催することができた。		
Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】		
課題	ウィズコロナ下に向け、これまでの取組みや手法では通用しなくなっている。	いつまでに
課題解決に向けた方向性（案）	みんなで知恵を出し、新たな取組みを検討するとともに新たな手法を構築する必要がある。	R5.3

V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

<ul style="list-style-type: none"> 高浜市の2022年問題というものがクローズアップされているが、生産緑地の契約が2022年度に切れるとみんな農地を売ってしまうと思う。土地をどんどん売って住宅が建つのはいいが農業は守られるのか。 行政が実施する産業の活性化について、PRできるものは恐らく少ないだろうと思う。例えば、(1)の取組みの中には、ほとんどジャンボ落花生の話しかない。また、企業を誘致すると言っておきながら、企業誘致については1行書いてあるだけであり、補助金を交付した企業に対してヒアリングを実施した結果については出てきていない気がする。 高浜高校のSBPや観光協会に対して、市役所はバックアップする立場だろうと思っているが、ここで産業を活性化するという市としての大きな視点がどこかに出てくるべきだという気がしており、例えば伝統産業をどうするかというのは、いろんなことを実施していただいているが実際にはどうしたいのかがわからない。瓦屋がどんどんなくなっていく中で、生き残った人を末永く伸ばしたいのか、それとも本当の伝統産業として美術工芸品のような形にしていきたいのかというのがよくわからない。 観光について、市が何をPRしたいのかがわからない。例えば鬼みちまつりが大きなイベントだとすると、産業の活性化を市がどういう形で、バックアップしていき、最終的にはどんな形にしたいのかというのがここではわからない。 産業・農地に触れているが理想のバランスとなる目標値を示してほしい。 イベント開催が主になっているが、それにより街の魅力に触れる人は増えても継続して訪れたいと思うにつながっていくかは丁寧に精査してほしい。

目標(7) みんなでまちをきれいにします

I. 目指す姿【PLAN】	
目標達成に向けての考え方	人類の共有財産である地球環境を守るため、一人ひとりが地球環境に対する意識を高め、地域・学校・事業者・関係機関と協力して環境に配慮した取組みを実践し、環境の負荷が少ない、快適できれいなまちを次世代に引き継ぎます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 地球環境から身近な生活環境まで、環境に配慮して行動する市民、事業者が増えています。 ◎ ごみをつくらない(リデュース)、再使用(リユース)、再生利用(リサイクル)の3R活動が推進され、ごみの減量化が図られています。 ◎ 道路や公園などに、ごみの散乱がなく、きれいで住みやすいまちになっています。
目標達成の進捗状況	A:順調 B:一定の進捗あり C:進捗が遅延している D:進捗が大幅に遅れている

目標の達成状況	策定値	実績値(H30)	実績値(H31)	実績値(R2)	実績値(R3)	実績値(R4)		
市民意識調査	【設問】 みんなで環境美化・保全に取り組んでおり、きれいなまちだと思う(%)							
	66.2	65.6	69.2	68.2	67.2			
みんな目指すまちづくり指標	日ごろから省資源や省エネなど環境に配慮した生活をしている人の割合(%)							目標値
	77.9	75.2	77.1	76.8	77.7		85	
	1人1日あたりの家庭ごみの排出量(g)							目標値
	540	564	539	508	538		490	
	市民一斉清掃や地域・企業での清掃活動に参加したことのある人の割合(%)							目標値
	60.4	59.6	58.0	61.2	55.6		71	

こんなことに取り組みます!	<p>(1) 地域・学校・事業者・関係機関と連携した環境保全活動に取り組みます。</p> <p>(2) 循環型社会の構築に向け、資源ごみのリサイクルを進め、ごみの減量化に取り組みます。</p> <p>(3) 「高浜市みんなでまちをきれいにしよう条例」を推進し、環境美化活動を進めます。</p> <p>【経済環境グループ】</p>
---------------	--

II. 目標達成のための主な取組み【DO】

何を・どうした	いつ
① 転入時にごみの出し方などを窓口で説明した。生ごみ処理機購入費補助の実施や不法投棄の回収、ごみ出しルールの啓発を実施した。リネットジャパンリサイクル(株)と提携し、パソコンなど小型家電の宅配便での回収を開始した。	R3.4-R4.3
② 立ち番等支援金を活用いただき、各町内会のごみの資源化対策の取組みを取りまとめ、町内会と情報共有した。	R3.5

III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

「市民意識調査」「みんな目指すまちづくり指標」結果に対する分析(要因・課題等)
環境美化・保全に関する市民意識は常に6割を超えていることから、大半の市民の意識は高いと推測できる。1日当たりの家庭ごみの排出量については、概ね横ばい傾向にあり、「まぜればごみ、分ければ資源」といった考え方のもと、ごみの減量とリサイクルの推進が図られてきた。今後も目標値を目指して、ごみ減量化につながる施策や啓発を行っていく必要がある。

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】

課題	いつまでに
更なるごみの減量とリサイクルの推進につながる施策や啓発を行う必要がある。	
課題解決に向けた方向性(案)	R5.3
二酸化炭素の排出の減少につながる、燃えるごみの減量化や、プラスチックごみの一括回収・資源化について、周辺市の動向を踏まえながら検討する必要がある。	

V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

- 環境保全、ごみの減量化、環境美化の課題が1つの課題として書かれているが、各課題を分けて書かないと、それぞれのテーマのPDCAが回らないのではないかと思った。
- 問題解決に向けた方向性について、周辺市の動向を踏まえながら検討するとあるが、本来は次のステップに行くための改善策のようなものが出てくるべきではないか。
- プラスチックごみの一括回収、資源活用については他市との協議も必要ですが、検討だけでなく進めていくことが必要ではないか。
- 昨今、燃料高となっているので経費についても注視していただきたい。

目標（8）自然と都市機能が調和した都市空間をつくります

I. 目指す姿【PLAN】	
目標達成に向けての考え方	住みやすい快適な都市空間をつくるため、道路やライフライン等について、予防保全型の計画的な維持管理や長寿命化を図るとともに、公園・緑地といった地域資源を地域とともに守り、まちの魅力を高めていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 都市空間の調和を保ち、安心して安全な暮らしを支える道路などの整備・保全が計画的に行われています。 ◎ 快適な生活の維持に必要な不可欠なライフラインが整備されるとともに、いつでもすべての市民に安定して水が供給できています。 ◎ 公園・緑地などが地域とともに守り育てられ、まちの憩いの場として親しまれています。
目標達成の進捗状況	A:順調 B:一定の進捗あり C:進捗が遅延している D:進捗が大幅に遅れている

目標の達成状況	策定値	実績値（H30）	実績（H31）	実績値（R2）	実績値（R3）	実績値（R4）	
市民意識調査	【設問】調和の取れた土地利用が図られ、安全・快適で移動しやすいまちだと思う（％）						
	44.8	50.2	56.1	51.7	53.7		
みんなで目指すまちづくり指標	道路の長寿命化を計画的に実施した割合（幹線道路の舗装）（％）						目標値
	18.4	23.1	28.4	31.5	33.9		38.6
	配水管の耐震化率（％）						目標値
	18.5	20.5	22.4	24.3	27.0		25
	公園・緑地・稗田川の水辺・港湾緑地等を利用している人の割合（％）						目標値
20.2	24.6	25.0	27.4	24.9		23	

こんなことに取り組みます！	（1）道路や橋りょう等の計画的な維持管理のため、調査・点検を進め、改良や修繕を行います。 【土木グループ】
---------------	--

II. 目標達成のための主な取組み【DO】	
何を・どうした	いつ
① 橋りょうの保守点検を実施した。	R4.3
② 舗装修繕工事（一級市道宮裏高端線）を0.14km実施した。	R3.10
③ 舗装修繕設計（二級市道呉竹向畑線、市道中久伝長縄線）を0.66km実施した。	R3.10

III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】	
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）	
○まちづくり指標「道路の長寿命化を計画的に実施した割合（幹線道路の舗装）（％）」33.9％（前年度比+2.4％）	
<ul style="list-style-type: none"> ・舗装維持修繕計画に基づき、損傷度・重要度の高い路線を計画的に舗装修繕が実施できた。 ・道路利用者の安全・安心を守るため、舗装維持修繕計画に基づき、継続的な修繕を実施する必要がある。 	

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】	
課題	いつまでに
高度成長期以降、区画整理事業などにより急速に整備した道路が老朽化により、損傷箇所が増加することが懸念される。	いつまでに
課題解決に向けた方向性（案）	適宜
	舗装維持修繕計画に基づき、損傷度・重要度の高い路線を計画的に舗装修繕を行う。

こんなことに取り組みます！	(2) 災害時でも水が安定的に供給できるよう、災害時避難所へ水道を供給する配水管を耐震管に布設替えるなど、耐震化を進めます。【上下水道グループ】	
Ⅱ. 目標達成のための主な取組み【DO】		
	何を・どうした	いつ
① 配水管を耐震管に入れ替えた。(市道東山小中根線外)		R4.3
② 配水場の老朽設備を更新した。(高浜配水場・吉浜配水場)		R4.2
Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】		
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析(要因・課題等)		
<p>○まちづくり指標「配水管の耐震化率」27.0%(前年度比+2.7%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 新規埋設管、下水道整備区域内の配水管及び老朽化した配水管を計画的に耐震管に入れ替えることで、管路の耐震化を進めることができた。 配水場の老朽施設を計画的に更新することができた。 利用者に対し、常時はもちろんのこと災害時にも安心して安全な水道水を安定して提供できるよう、引き続き管路の耐震化と、配水場の老朽施設の更新を進める必要がある。 		
Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】		
課題	健全経営を考慮しつつ、計画的に整備を進める必要がある。	いつまでに
課題解決に向けた方向性(案)	<ul style="list-style-type: none"> ◎配水管を耐震管に入れ替える。(新規埋設管、下水道整備区域等) ◎老朽管を計画的に耐震管へ入れ替える。 ◎配水場の老朽設備を更新する。(配水ポンプ、ポンプ制御盤等) 	適宜

こんなことに取り組みます！	(3) 公園施設長寿命化計画に則って計画的に公園施設の修繕を進めるとともに、地域の関係団体と協働で「緑のあるまちづくり」を進めます。【土木グループ】	
Ⅱ. 目標達成のための主な取組み【DO】		
	何を・どうした	いつ
① 老朽化した大清水公園の照明灯更新に併せ、維持管理費の安価なLED灯にした。		R3.10
② 老朽化した東中根児童遊園の遊具の更新を行った。		R4.2
③ 町内会やNPO団体等の行事に参加し、地域団体の方と協働で、公園、緑地、街路樹や水辺の保全活動を行うとともに、花苗の提供を行った。		R2.4~
Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】		
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析(要因・課題等)		
<p>○まちづくり指標「公園・緑地・稗田川の水辺・港湾緑地等を利用している人の割合(%)」24.9%(前年度比-2.5%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民意見調査結果によると公園・緑地などが幅広い年代に利用され、特に小さいお子様がいらっしゃる30代の方の利用が多いことから、ご家族での公園・緑地など利用されていることが推測される。 公園・緑地などが、まちの憩いの場として親しまれ、安全・安心して利用できるよう引き続き維持管理していく必要がある。 		
Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】		
課題	老朽化した施設が年々増えてきている。	いつまでに
課題解決に向けた方向性(案)	<ul style="list-style-type: none"> ◎老朽化が著しい施設の今後の維持管理費等を比較、地域の利用状況を調査し、地域の意見を踏まえ改修を進める。 ◎財政状況を踏まえ、優先順位をつけて改修する。 	適宜

V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

<ul style="list-style-type: none"> ・ライフラインについては早く対策しないと大変だと思う。地震等の災害や老朽化でライフラインが止まるなど、国のリダンダンシーの話である。国が防災、減災、国土強靱化のための5か年強化対策というのを打ち出して、令和2年度から5年間15兆円を用意しているので、そのお金を使い、早く進めるということも考えるべき。 ・大雨の水害により、下水道のマンホールの蓋による事故がよく発生している。マンホールの蓋は約5年で寿命が来るため取り替えるという話になっているが、高浜市はマンホールの管理についてどうしているのか。

目標(9) 安全・安心が実感できるまちづくりを進めます

I. 目指す姿【PLAN】	
目標達成に向けての考え方	近い将来に発生が予測される大震災に加え、集中豪雨・台風・火災などの災害、身近に起きる犯罪・交通事故から生命を守り、被害を最小限に食い止めるため、市民・地域・事業者・関係機関・行政がそれぞれの役割を果たし連携を図る中で、安全・安心に暮らせる環境を築いていきます。
目標が達成された姿	◎ 市民一人ひとりが、災害・犯罪・交通事故に対する予防や備えに取り組んでいます。 ◎ 「自助」「共助」「公助」の考えに基づく役割分担と相互の連携が強化され、防災・減災対策、防犯・交通安全対策など、安全・安心を守る活動が地域の中で積極的に行われています。 ◎ 誰もが安全で安心だと感じながら暮らしています。
目標達成の進捗状況	A:順調 B:一定の進捗あり C:進捗が遅延している D:進捗が大幅に遅れている

目標の達成状況	策定値	実績値(H30)	実績値(H31)	実績値(R2)	実績値(R3)	実績値(R4)	
市民意識調査	【設問】安全・安心が実感できる防災・防犯対策が進められているまちだと思う(%)						
	57.7	55.3	55.1	55.6	59.9		
みんなで目指すまちづくり指標	家具を固定している人の割合(%)						目標値
	59.1	61.0	63.0	62.5	62.9		70
	防災訓練に参加したことのある人の割合(%)						目標値
	61.9	61.7	64.3	63.5	59.7		72
	人口1,000人当たりの犯罪発生件数(件)						目標値
	6.9	6.5	5.9	5.8	4.8		6.0
	人口1,000人当たりの交通事故発生件数(件)						目標値
3.9	3.7	2.7	2.6	2.5		3.0	

こんなことに取り組みます！	(1) 自然災害に対し、市民・地域・事業者・関係機関と「自助」「共助」「公助」の考えに基づく役割分担と相互の連携強化を図り、実践的な防災・減災活動に取り組みます。 【防災防犯グループ】
---------------	---

II. 目標達成のための主な取組み【DO】	
何を・どうした	いつ
① 地域の防災・減災活動の中心であるまちづくり協議会、町内会に対して、新型コロナウイルス感染症の対策を講じながら地域防災リーダー養成講座を開催。講座では実際の災害現場の映像を流したり、避難所での感染症対策の実技を行った。講座参加者へのアンケートでは「参考になった」「とても勉強になった」などの意見もあり、地域防災の重要性を伝えることができた。	R3.7-R4.3
② 地域防災リーダー養成講座や、職員の出前講座などで高浜市防災マップを使って、市内のリスクがある場所や避難所、避難場所についての説明や防災マップに同封しているマイ・タイムラインの重要性と作成方法について講座を行った。また、広報及び市公式ホームページを用いてマイ・タイムラインの作成の周知を図った。	R3.5-R4.3
③ 外国人がより災害や防災を意識できるような学習内容を整え、水消火器などを使用した体験型の防災学習会を開催した。	R4.3
④ 商工会建設部会会員との分野別の意見交換を実施するとともに、市内のハザード情報を共有するため、高浜市防災マップを配布した。	R3.8

Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】		
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）		
○まちづくり指標：「家具を固定している人の割合」62.9%（昨年度比+0.4%） ・家庭でできる災害対策として家具固定の重要性、必要性の周知を継続して実施したことで、家具を固定している人の増加につながったと考えられる。		
○まちづくり指標：「防災訓練に参加したことがある人の割合」59.7%（昨年度比-3.8%） ・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、総合防災訓練を中止したことが減少の要因と考えられる。		
Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】		
課題	◎新型コロナウイルス感染症の影響により防災訓練が実施できないなど、防災・減災対策の重要性が認識される機会が減ることにより、市民の防災・減災に関する意識が低下するため、意識が向上するように努める必要がある。	いつまでに
課題解決に向けた方向性（案）	◎感染症対策をしながら実施できる防災訓練を、まちづくり協議会や町内会と一緒に検討しながら進めていく。	R4.9
	◎市民一人ひとりの防災・減災意識向上のため、防災・減災に関する情報の周知とマイ・タイムライン（避難行動計画）作成を促していく。	R5.3

こんなことに取り組みます！	（2）「高浜市みんなで犯罪のないまちにしよう条例」に基づき、地域・警察等で構成する高浜市防犯ネットワーク会議を軸に、犯罪抑止活動を推進します。【防災防犯グループ】
---------------	---

Ⅱ. 目標達成のための主な取組み【DO】		
	何を・どうした	いつ
①	まち協や警察関係者などと連携し、毎月10日を中心に個別訪問による防犯診断を実施した。	R3.4-R4.3
②	地域及び警備会社による青色防犯パトロール活動を実施した。	R3.4-R4.3
③	市公式ホームページへの掲載や窓口へのチラシの設置に加え、事件・不審者等の情報をメールで知らせるパトネットあいちの登録促進に努めた。	R3.4-R4.3
④	防犯カメラを5台および防犯上適切な箇所への防犯灯を増設した。	R3.4-R4.3

Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】		
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）		

○まちづくり指標：「人口1,000人あたりの犯罪発生件数」4.8件（昨年度比-1.0%） ・地域自主防犯団体の積極的な防犯活動や市内における防犯カメラの計画的設置等が犯罪抑止につながっていることが考えられる。		
---	--	--

Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】		
課題	市内の刑法犯認知件数を減少させていくために、特殊詐欺や侵入盗などへの対策を行うと同時に地域住民の防犯意識の向上に努める必要がある。	いつまでに
課題解決に向けた方向性（案）	◎警察や地域と連携し、安全なまちづくり運動期間中の啓発活動、年金支給日に合わせた高齢者への特殊詐欺防止の呼びかけや侵入盗防止対策の防犯診断を実施する。	R5.3
	◎通学路をはじめとする防犯上適切な箇所への防犯灯及び防犯カメラを増設する。	R5.3

こんなことに取り組みます！	（3）地域・警察・事業者・関係機関と連携し、特に自転車の運転マナーの向上、高齢者や子どもの交通事故防止に向けた取組みなど、交通安全対策を進めます。【防災防犯グループ】
---------------	---

Ⅱ. 目標達成のための主な取組み【DO】		
	何を・どうした	いつ
①	春・夏・秋・年末の交通安全市民運動期間中の一斉大監視活動、10日・20日・30日のゼロの日街頭活動及び新型コロナウイルス感染症対策を考慮しての啓発活動などを実施した。	R3.4-R4.3
②	小学生を対象とする自転車の安全な乗り方教室の実施や、令和3年度に7歳から18歳及び65歳以上の市民を対象に、安全認証の備わった自転車用ヘルメットの購入費の補助を行った。	R3.4-R4.3
③	高浜市交通安全協会と連携を図り、運転免許証を返納した65歳以上の高齢者に、商店振興会加盟店で使用でき、いきいき号の回数券も購入できるスマイルカード2千円分を贈呈することで、高齢者の自主返納の促進に努めた。	R3.4-R4.3
④	市公式ホームページへの掲載や窓口へのチラシの設置に加え、交通事故情報をメールで知	R3.4-R4.3

らせるパトネットあいちの登録促進に努めた。		
Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】		
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）		
○まちづくり指標：「人口1,000人あたりの交通事故発生件数」2.5件（昨年度比-0.1%） 高浜市交通安全協会と連携を図り高齢者の運転免許証の自主返納の促進に努めたことや、児童・生徒への交通安全教室を通して交通安全意識の向上に努めたことが、交通事故の抑制につながっているものと考えられる。		
Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】		
課題	市内の交通事故件数を減少させていくために、高齢者及び子どもの交通事故を抑止する対策を講じる必要がある。	いつまでに
課題解決に向けた方向性（案）	◎高齢者に対して、運転免許証の自主返納を促進するための補助制度の周知を図る。	R5.3
	◎子どもに対して、警察・協力団体・教育機関等と連携を図り、自転車の乗り方や横断歩道の渡り方等の交通安全教育の充実を図る。	R5.3

V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

<ul style="list-style-type: none"> 分析されている通り、防災訓練を中止とすると市民の防災、減災意識が低下すると思う。感染症を意識しながら、より実践的な訓練を実施できるよう地域の皆さんと一緒に打ち合わせしながら進めるべきだと思う。 マイ・タイムラインについて知っている人が少ないのではないかと感じている。これを作成していただけるような策が必要ではないのかと思った。 地域防災リーダーについて、リーダーという言葉が入っていることで敷居が高く感じられてしまい、取り組んでいただくことが難しいのであれば、リーダーという言葉がなくし、防災心得講座にしてみてもどうか。そこから第2ステップのスタッフリーダー養成講座、第3ステップの防災士資格認定にしていけば良いのではないかと。こういう人たちをどのぐらい把握しているのかは、この取組みを補助するために非常に有意義な数字だと思う。 無理してでも防災士を作らなければまちの安全性は保たれないので、各まち協ごとに防災士最低10名ぐらい作ってくださいと要請してもよいのではとも思う。民間で防災士まで行くような人たちもいるので、危機感を持って取り組んだほうがいいのではないと思う。 町内会でやろうとしていることが、必ずしも市がやろうとしていることと一致していないかもしれないが、せっかく地域を巻き込んで何かを実施しようということであるなら、まち協や町内会への働きかけをしてほしい。市の採用1、2年目の方等をもっと活用して、町内会等の地域活動に積極的に参加させたらどうか。町内会も1年ごとに役員が変わってしまい、つながらないので、その辺も考えながらその地域との取り組みを考えていただきたい。 地域防災リーダーの活躍・活動の場を創出できるとよいと思う。 地域の防災の裾野を広げる取組みを継続していくことは大切である。 マイ・タイムラインの作成推進の取組みをぜひお願いします。

目標(10) 一人ひとりを認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めます

I. 目指す姿【PLAN】	
目標達成に向けての考え方	市民が抱える課題や福祉ニーズは、年々複雑化・多様化しています。家族、近所、町内会、まちづくり協議会などの地域のネットワークや事業者、関係機関などが協力して、誰もが住み慣れた地域で、その人らしく、安心して生活できる環境を築いていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 困りごとを抱え、支援を必要とする人に対して、包括的な相談支援が行われています。 ◎ 支援を必要とする人に対して、ニーズに応じた福祉サービスが提供され、誰もがその人らしくいきいきと暮らしています。 ◎ 福祉サービスやふだんの生活を支える人材が確保され、地域の中で互いが協力し、支え合いの担い手として活躍しています。
目標達成の進捗状況	A:順調 B:一定の進捗あり C:進捗が遅延している D:進捗が大幅に遅れている

目標の達成状況	策定値	実績値(H30)	実績値(H31)	実績値(R2)	実績値(R3)	実績値(R4)	
市民意識調査	【設問】一人ひとりが認め合い、高齢者や障がい者などがいきいき暮らすことができるまちだと思う(%)						
	63.0	58.5	62.9	60.9	62.6		
みんなで目指すまちづくり指標	いきいき広場(総合相談窓口)を知っている人の割合						目標値
	72.3	74.8	77.2	76.0	73.0		80
	高浜市内でボランティア活動に参加したことがある人の割合						目標値
	29.7	28.3	29.1	28.8	25.7		36

こんなことに取り組みます!	(1) 生活困窮、介護、障がい、育児など、支援が必要な人に対し、早期かつ包括的な相談支援を行い、各々の事情に応じた支援につなげます。【地域福祉グループ】
---------------	--

II. 目標達成のための主な取組み【DO】	
何を・どうした	いつ
① 複合的な課題を抱える世帯への支援に、関係機関と支援会議を定期的に設け、支援方法の検討を行った。また、新型コロナウイルス感染症の影響により増加した生活困窮世帯に対し、貸付や給付金等の各種支援制度が利用できるよう、その世帯に応じた自立支援策の提案を行った。	R3.4~
② 学習支援事業の利用者及び家族に対して、子どもの成長や要望等を調べるため、アンケートを継続実施した。また、進路決定支援として、進路選択期にある子どもたちを対象にインターンシップチャレンジを実施した。	R3.4~
③ 子ども貧困対策会議を開催し、学習支援事業の実施状況報告と、事業評価として利用者の進路状況調査の報告を行った。	R3.7

III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】	
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析(要因・課題等)	
いきいき広場は、福祉部、こども未来部及び教育委員会が配置され、妊娠期から高齢期まで全世代にわたる支援体制を構築している。また、高齢者、障がい者、子ども、生活困窮者等、様々な分野での困りごとを包括的にとらえ、福祉の総合拠点として取り組んできた。近年のまちづくり指標「いきいき広場(総合相談窓口)を知っている人の割合」をみてみると減少傾向にあるため、情報発信に努めるとともに、相談機能の強化を図る必要がある。	

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】	
課題	いつまでに
相談支援の充実を図る必要がある	
課題解決に向けた方向性(案)	R5.3
新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中で、特に生活困窮者への支援を充実させるため、自立支援機関に相談支援員を1名増員し、支援体制の強化を図る。	

こんなことに取り組みます!	(2) その人に合った暮らしを実現するため、地域の実情に応じて、福祉サービスや地域の支え合いの充実を図ります。【地域福祉グループ】【介護障がいグループ】
---------------	--

II. 目標達成のための主な取組み【DO】	
-----------------------	--

何を・どうした	いつ
① 障がい者・要介護者・高齢者区分に該当する方を対象に名簿提供の同意書を受領するため、郵送による勧奨を行った。また、同意書の返送があった方より、順次個別避難計画の作成を行った。	R3.4～
② 町内会長、まちづくり協議会防災担当等の避難支援関係者に要支援者名簿を配布し、名簿を活用した避難訓練等の実施を呼びかけた。	R3.6～
③ 福祉避難所の開設訓練として、各福祉避難所と災害時を想定した無線訓練を行った。	R3.4～
④ 特別支援学校の卒業生に対して、就労先（受入先）のニーズ調査と事業所との調整に向けて準備を行った。	R3.4～
⑤ 地域生活支援拠点を創設し、支援が必要な方に対して適切なサービスを提供した。	R3.4～

Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）

複雑・多様化する福祉ニーズに対応するためには、共助である地域の支えあいの充実が図られる取り組みが必要である。災害時の要支援者や障がいのある方が地域での支援を受け、いきいきと暮らしていけるよう地域支援関係者との協議を進めてきたが、コロナ禍で様々な行事が中止されるなど要支援者との交流の機会が大きく減少したことにより、まちづくり指標「高浜市内でボランティア活動に参加したことがある人の割合」の減少につながった。

Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】

課題	地域の支えあいの体制づくりが必要となる	いつまでに
課題解決に向けた方向性（案）	◎災害発生時に要支援者を守るため、地域組織内での役割を明確にし、地域の支援体制づくりを進める。	R5.3
	◎緊急時において障がい児者の受入れがスムーズに対応できるように、市内外の障がい事業所が協力し、支援体制の充実を図っていく。	R5.3

こんなことに取り組みます！

(3) 福祉サービスやふだんの生活を支えるための多様な人材を養成します。
 【介護障がいグループ】【福祉まるごと相談グループ】

Ⅱ. 目標達成のための主な取組み【DO】

何を・どうした	いつ
① 新型コロナウイルス感染症の影響により、介護の研修をオンラインで実施した。	R4.1
② 「高浜市介護サービスガイド」のパンフレットを配布し、介護に対する理解を広めた。	R3.4～

Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）

複雑・多様化する福祉ニーズに対応するためには、共助である地域の支えあいの充実が必要であるが、それを支える人材の発掘や育成も必要となる。こうした人材の確保、育成に研修等の機会を設けていたが、コロナ禍にあって思うように開催することができなかった。このことにより、まちづくり指標である「高浜市内でボランティア活動に参加したことがある人の割合」も減少した。

Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】

課題	地域福祉を支える人材の確保及び育成が必要である	いつまでに
課題解決に向けた方向性（案）	◎市と市内の全介護事業所が連携し、介護職の魅力を発信することで、若年層やアクティブシニア層といった新たな担い手の発掘を行う。	R5.3
	◎介護職員のキャリアアップと各事業所職員も交流を図ることで離職防止を図るため、引き続き「介護事業所相互交流研修事業」を実施する。	R5.3

V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

- ・ボランティアと今年度の取組みの関連性が不明である。
- ・地域の助け合い＝ボランティアとするには地域のつながりが脆弱である。
- ・目標の達成状況と結果分析欄ではボランティアへの参加について触れているが、課題解決に向けた方向性についてはそれに触れてはいない。ボランティアを増やす体制づくりというのは人材づくりという考え方でよいのか。
- ・障がい者や要介護者、高齢者、認知症の方々が1人で住んでいる場合に、ごみをステーションまで持っていけないこともあると思うが、それについてどのようなサービスをしているのか。それとも、近所の誰かが気づいて運んでいるのか。
- ・災害時のボランティアを育成するという捉え方でよいのか。
- ・有償にする、民間企業を導入することも必要ではないでしょうか。

目標(11) 一人ひとりの元気と健康づくりを応援します

I. 目指す姿【PLAN】	
目標達成に向けての考え方	健やかで心豊かに生活するためには健康であることが大切です。一人ひとりが健康づくり活動に取り組むことができるよう、地域全体で健康寿命を延ばしていくための環境づくりを進めます。
目標が達成された姿	◎ 若いうちから、一人ひとりが自身の健康状態を把握し、健康づくり活動へ積極的に参加しています。 ◎ 誰もが住み慣れた地域で、生きがいや役割を持ち、健康でいきいきと暮らしています。 ◎ 医療、介護、予防、生活支援の連携体制（地域包括ケア）が構築されています。
目標達成の進捗状況	A:順調 B:一定の進捗あり C:進捗が遅延している D:進捗が大幅に遅れている

目標の達成状況	策定値	実績値(H30)	実績値(H31)	実績値(R2)	実績値(R3)	実績値(R4)	
市民意識調査	【設問】一人ひとりの元気と健康づくりを応援しているまちだと思ふ(%)						
	65.8	61.7	60.5	59.7	59.7		
みんなで目指すまちづくり指標	日常的に外出や運動を楽しんでいる人の割合(%)						目標値
	63.4	66.3	62.6	61.8	59.7		71
	かかりつけ医を持っている人の割合(%)						目標値
	78.6	74.7	70.1	71.7	68.0		84

こんなことに取り組みます！	(1) 生涯をとおして健康を意識し、生活の質を高めるための健康づくり活動を応援します。【健康推進グループ】
---------------	---

II. 目標達成のための主な取組み【DO】	
何を・どうした	いつ
① 健康づくり推進委員がインスタグラムを活用して、コロナ禍で新たな健康づくりの情報発信を始めた。	R3.9-R4.1
② コロナ禍における高齢者の健康づくりやフレイル予防を広報紙等で情報提供を行った。	R3.7
③ 6年生児童を対象に、生活習慣病予防教室を実施した。	R3.7~

III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】	
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析(要因・課題等)	
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における外出自粛やリモートワーク等の推進により、外出、運動機会が減少した可能性があり、日常的に外出や運動を楽しんでいる人の割合は30代~50代、70代で減少している。 ・一人ひとりの元気と健康づくりを応援しているまちだと思ふ人の割合は昨年と変わらず、家でできる健康づくり情報や、新型コロナワクチン関連の情報を積極的に発信したため、健康不安が高まる時期にも横ばいで推移したと考えられる。特に、「そう思う」と答えた人の割合が20代、30代で上昇しており、SNSを利用した情報発信により、健康情報に触れる機会が少なかった世代にアプローチできたと考えられる。 	

IV. 課題と今後の取組み【ACTION】		
課題	健康情報の発信、健康づくり支援	いつまでに
課題解決に向けた方向性(案)	新型コロナウイルスの感染症対策や、長引くコロナ禍が及ぼす健康への影響に対し、様々なツールを利用して健康情報を発信することで、市民が健康づくりに取り組めるよう支援する。保健事業を通して自らの健康状態に気づき生活習慣を見直せるきっかけづくりを行う。	R5.3

こんなことに取り組みます！	(2) 高齢者の居場所である「健康自生地」を応援するとともに、担い手としての活躍の場を創出します。【健康推進グループ】	
Ⅱ. 目標達成のための主な取組み【DO】		
	何を・どうした	いつ
①	健康自生地の担い手へ「認知症サポーター養成講座」を継続的に実施することで、認知症への理解を広めた。	R3.4～
②	情報紙「でいでーる」で、コロナ禍のフレイル予防や健康づくりに関する情報を掲載するほか、厚生労働省が協力している「オンライン通いの場」アプリに健康自生地を登録するなど、健康自生地の利用を促した。	R3.4～
③	令和2年度に引き続き、65才以上の市民にホコタッチを配布し、高齢者の健康維持とともに地域へ出かけるきっかけづくりを行った。	R3.4～
④	新たな健康自生地や担い手についての相談に応じ、4か所の新規健康自生地を認定することができた。	R3.4～
Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】		
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）		
<ul style="list-style-type: none"> ・市民意識調査及びみんなで目指すまちづくり指標ともに60歳代の数値が伸びていることから、配布しているホコタッチが活用され、健康維持や地域に出かけるきっかけづくりに寄与できたと考える。 ・70歳代以上の数値はともに減少していることから、コロナ禍でも自宅に閉じこもりがちにならないよう外出を促し、認知機能と身体活動の低下を防ぐ必要がある。 		
Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】		
課題	高齢者が健康づくり活動に参加する仕組みづくり	いつまでに
課題解決に向けた方向性（案）	高齢者の通いの場となる「健康自生地」や配布している「ホコタッチ」を活用し、健康自生地をめぐるウォーキングコースを情報紙「でいでーる」や「たかま元気 de ねっと」等で情報発信するなど、高齢者が日常的に健康づくり活動に参加できる仕組みを検討する。	R5.3

こんなことに取り組みます！	(3) 疾病を早期に発見し、適切な治療が受けられる「かかりつけ医」を持つよう働きかけるとともに、地域医療と介護の連携を推進します。 【福祉まると相談グループ】【健康推進グループ】	
Ⅱ. 目標達成のための主な取組み【DO】		
	何を・どうした	いつ
①	各種研修会を通じて在宅医療に対する意識向上を図り、医療・介護関係者等が連携しやすい関係づくりを進めた。	R3.4～
②	「えんjoyネット高浜」の利用を積極的に市内関係機関へ依頼するとともに、広域連携地域の拡大によりネットワーク強化を図った。	R3.4～
③	「えんjoyネット高浜」の利用に伴う新たな課題や改善点を整理し、利用しやすい環境づくりを進めた。	R3.4～
④	休日及び夜間における診療を確保するため、医科及び歯科医師会との連携を図り、在宅当番医制を実施するとともに、6市による2次救急医療体制を継続した。	R3.4～
⑤	地域医療ネットワークによる病診連携が図られていることを周知するとともに、かかりつけ医を持つように健診時や市公式ホームページで呼びかけた。	R3.4～
⑥	子育て世代への周知を図るため、乳幼児健診でかかりつけ医の確認とかかりつけ医を持つことの推奨を行った。	R3.4～
Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】		
「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）		
住み慣れた自宅で安心して療養していただくための医療・介護の連携体制は着実に広がりつつある。また、地域医療ネットワークによる病診連携も進んでいるが、指標「かかりつけ医」を持っている方の割合で20代、30代は50%台となっているため、若年世代へもっと健康に関心を持っていただけるような情報発信を行う必要がある。		
Ⅳ. 課題と今後の取組み【ACTION】		
課題	若年世代への情報発信	いつまでに
課題解決に向けた方向性（案）	乳幼児健診で「かかりつけ医」の確認を行うとともに、健診時や市公式ホームページ等での継続的な周知を行う。また、自身の健康に興味を持っていただくために市公式ライン等を活用して若年世代に向けた情報発信を行う。	R5.3

V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

- 外出自粛やテレワークにより日常的に外出や運動を楽しんでいる人の割合が減少しているとあるが、テレワークと日常の外出や運動は関係が薄いと思う。
- 健康自生地は高齢者の外出・参加の仕組みとして継続されていますが、更なる仕組みの検討が必要なのではないか。
- 外出が難しい方へ家庭での健康・運動の啓発も充実させていくことが必要かと思います。
- 70歳代の認知機能と身体活動の低下を防ぐことに対する課題解決に向けた方向性で、日常的に健康づくり活動に参加できる仕組みを検討するとあるが、さらにどんな仕組みを想定しているのか。また、具体的な仕組みとしてはないのか。

第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果 【目標全般】

- 結果分析に対して結果は書かれているが、分析の部分が様々なところで弱いと感じられたので、もう少し分析が入ると、これからの展開に向けて、アクションの意味合いが深くなると思う。
- 問題として、地域や一人ひとりの住民の方に働きかけることがところどころ出てきているが、それをどう見ており、どう評価しているのかをもう少し入れておかなければならない。自身はしっかりやっただから満点と感じていても、相手はそう思っていないのかもしれないという猜疑心を併せ持つてほしい。
- 各シートがPDCAという形になっていて、Doの部分はたくさん書いてあるが、チェックの部分については実施したことがそのチェックから導かれたもので、次の段階への改善策があまりはっきり出ていない。またつながりがよくわからない形で書いてあることが多く感じる。チェックしたことから次のアクションへ、さらに改善策をここで出していただいて、それを何回か繰り返していただくことを目標にするともっとも力がつくのではないかなと思う。
- 地域という言葉が出てこなさすぎると思う。全てのことが地域と関係しているが、地域に対しては何を期待する、地域にはこういうことをしてほしいということが出てきていない。全部行政主体でできると思い込んでいる。道路公園、上下水道に関しても地域の役割はあるはずであり、ハード面に関して、何か地域とあんまり関係ないかのように受け取れる。この考え方はそろそろ改められるべきだと思う。例えばアダプト道路というものを設定し、仮に道路に破損があればすぐに連絡してくださいというような、地域住民とつながるような仕組みをつくっていくことが出来るのではないかなと思う。

